

京都女子大学 地域連携研究センター

Annual Report 2020



目次

■地域連携研究センター

2020 年度の活動を振り返って 地域連携研究センター長 中山 玲子	01
---------------------------------------	----

■女性地域リーダー養成プログラム

2020 年度開講科目一覧	02
---------------	----

■連携プロジェクト補助事業

2020 年度連携プロジェクト補助事業一覧	10
京都の伝統染織産業における分野を越えた産産学連携事業—新技術を生かした商品開発— 家政学部 生活造形学科 教授 青木 美保子	11
音楽活動による地域貢献・地域交流プロジェクト「京女の“音楽”宅配便」 発達教育学部教育学科・音楽教育学専攻 准教授 荒川 恵子	13
呼吸法を用いた歌唱活動で健康法を学ぼう 発達教育学部教育学科・音楽教育学専攻 教授 ガハプカ 奈美	15
司書の学びを地域に活かす！～オンライン編～ 図書館司書課程 講師 桂 まに子	17
福祉施設と学生とのアイデアを結集した「MADE IN KYOTO」商品開発 生活デザイン研究所 非常勤研究員 宮原 佑貴子	19
その他の連携活動 コロナ禍で、工夫した活動を展開	21

■生涯学習

京都女子大学が提供する「多様な学びの場」	22
2020 年度公開講座一覧	23
2020 年度 生涯学習講座一覧	24
いつまでもいくつになってもよい姿勢 2020 年度後期版（前年度までとの相違） 地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子	25
2020 年度リカレント教育課程（3 コース）総括	27
キャンパス通学コース	29
eラーニングコース	31
土曜通学コース	35

2020 年度 主な活動実績	39
----------------	----

協定締結先と連携協定内容一覧	40
----------------	----

京都女子大学地域・産学官連携ポリシー	41
--------------------	----

※教員の所属・職名は 2020 年度当時

2020 年度の活動を振り返って

地域連携研究センター長 中山 玲子

前特命副学長・地域連携研究センター長 竹安栄子の学長就任に伴い、2020 年 6 月に後任として就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携研究センターは、2015 年 10 月に設立されて以来、竹安前センター長の強いリーダーシップの下、活動を展開、発展してきた。特に、京都市大学補助事業「学まち連携大学促進事業」により、本学の地域・産学官連携活動は、量的にも質的にも飛躍的な進展を遂げることができた。（2015 年度～2019 年度までの 5 年間の活動実績については、当センターのホームページやアニュアルレポートを参照されたい。）

連携・協定先（行政、企業、大学・教育機関、金融機関、各種団体等）も、設立当初 8 件であったものが、2020 年 3 月末時点で 35 件と、飛躍的に拡大した。2020 年度は、国立大学法人滋賀大学（2020 年 11 月）、京都中小企業家同友会（2020 年 12 月）、京都中央信用金庫（2021 年 1 月）、公益財団法人奈良屋杉本家保存会（2021 年 3 月）と、連携協定を締結できた。

2020 年度の活動を振り返ると、世界的に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るい、連携活動にもかなりの支障が出た。

前期は、大学の講義もオンラインとなり、女性地域リーダー養成プログラム（連携活動科目）は不開講とせざるを得ない科目が有り、後期も 50 名未満は対面授業が再開できたが、50 名以上の講義はオンライン（オンデマンド）となり、寄附講座の講師の皆様には、録画による講義提供となったが、ご理解とご協力に心より御礼申し上げたい。

社会人を対象とした履修証明プログラムは不開講となり、大学全学科、附属施設提供の生涯学習講座や公開講座も前期開催予定のものは後期に延期となったが、COVID-19 の感染拡大により、直前に中止を余儀なくされたものもあった。

地域連携活動は、かなりの制約があったが、オンライン活動も駆使して可能な限りの活動を行った。東山区役所との連携活動「『うち時間@東山』（Web サイト『STAY HOME 応援』）に『栄養クリニック 健康レシピコーナー』が協力、「令和 2 年度東山区民ふれあい作品展」に絵画部学生が作品出展協力、「東山区民ふれあいひろば ONLINE」に京炎そでふれ！京小町の学生が参加（動画配信）協力」や、発達教育学部児童学科矢野ゼミ生による祇園北地区 4 町内行燈絵の制作、図書館司書課程受講生による第 22 回図書館総合展オンライン「チャットレファレンス道場」開催、現代社会学部丸野ゼミ生による京都市立東山泉小中学校でプログラミング教室実施など、の活動ができた。

今年度の特筆すべき成果としては、リカレント教育課程

が挙げられる。2018 年度から開講してきた平日通学コースに加えて、今年度は、働く女性のためのリカレント教育課程として、eラーニングコース（厚生労働省委託事業「教育訓練プログラム開発事業（2 年開発コース）」本学の事業名称：非正規雇用で働く女性のキャリアアップ・キャリアチェンジ支援プログラム）と、土曜通学コース（文部科学省委託事業「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」本学の事業名称：AI/RPA に特化した働く女性のための学び直しプログラム）の 3 コースを開講した。

まず、6 月に池上彰氏を招いてのリカレント教育課程説明会をオンラインで開催したところ、例年の倍以上の方に参加いただいた。eラーニングコースは 2019 年度からプログラム開発・教材開発を行い、今年度は講座を開講したが、計画当初は予想もしていなかったコロナ禍のため、現在ではオンライン授業が当たり前ようになってきており、先見の明があったといえよう。eラーニングコースは、定員の 4 倍、土曜通学コースも 1.7 倍の応募があり、キャリアアップ、キャリアチェンジを目指し、働きながら学び直しをしたいと考えている女性が多いことを再確認した。

10 月にリカレント教育課程が開始されてからも、COVID-19 の感染拡大により、対面授業をオンデマンドに切り替えたり、受講生同士のコミュニケーションを図るため、チャットシステムや SNS を活用するなど、キャリアカウンセラーやコーディネーターのきめ細かいサポートにより、リカレント教育課程は無事に修了できた。受講生からも高い満足度、評価を得ることができ、外部評価も高かった。

リカレント教育課程は今年度で 3 年を経過し、「女性のためのリカレント教育課程なら京女」と一定の評価をいただけるようになったのも、ひとえに、行政や企業、各種団体との緊密な連携活動が基盤にあったからこそ、関係各位に心より御礼申し上げたい。

本学は今年度、大学創基 100 周年を迎え、京都女子大学第 2 次グランドビジョン（2020-2029）が発表された。その中に、Topics04「女性の活躍をささえるリカレント教育の充実」が挙げられ、関西における女性対象のリカレント教育課程のパイオニアとして、多様な立場にある女性のキャリアアップ・社会復帰を支えるリカレント教育課程の充実に、産官と連携して取り組む、が挙げられている。

COVID-19 との戦いはしばらく続くと思われますが、京都女子大学の使命である、自己の能力を活かして社会に貢献する自立した女性人材を養成し、「生涯学び続けることのできる大学」を目標に、地域連携研究センターは、今後も更なる活動を展開していく所存です。より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

女性地域リーダー養成プログラム 2020 年度開講科目一覧

科目名	担当者	開講時間	概要
連携活動入門	竹安 栄子	後期／火 2	連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～ 連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。
地域連携講座 A1	京都府庁・京都市役所 日本銀行・京都信用金庫 (寄附講義) (鳥谷 一生)	後期／木 2	京都府・市の行政と地域の金融・企業について学ぶ 本授業は、京都府庁、京都市役所総合企画局、日本銀行京都支店、そして京都信用金庫のご協力のもと、各々ご担当者を招聘して組み立てられている。
地域連携講座 A2	大妻女子大学 (表 真美)	後期 集中講義	大妻女子大学「地域文化理解1」 この授業では益々多様化する社会の価値観に対し、世界と日本そして地域社会とその文化特質に関し特にサービス&ホスピタリティの視点から、その中心的産業の第一線で活躍するゲスト講師の講義と各企業へのフィールドワークを通して、自らの価値観醸成を目的とする。
地域連携講座 B1	2020 年度不開講		
地域連携講座 B2	2020 年度不開講		
産学連携講座 A1	株式会社三井住友銀行 (寄附講義)	後期／水 2	持続可能な社会の実現を果たす民間金融機関の役割 三井住友銀行及びそのグループ会社での事業内容を素材にしながら、これらの様々な事業の仕組みを解説するとともに、今後の社会生活や資産形成に必要な知識を習得する。
産学連携講座 A2	野村證券株式会社 (寄附講義)	後期／木 4	基礎知識としくみの理解 資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。
産学連携講座 B1	株式会社朝日新聞社 (寄附講義)	前期／火 5	新聞を通じて現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う 現役の新聞記者が様々な社会問題をテーマに複数回、講義をする。学生はそれぞれの意見を小論文として提出。講師が全員分を添削し講評する。
産学連携講座 B2	2020 年度不開講		
産学連携講座 B3	連合京都・企業 各種組織 (寄附講義)	前期／水 2	働く女性のための基礎講座 労働組合や企業・公務などの実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた働くことに必要な基礎知識について学ぶ、オムニバス形式の授業。
連携課題研究	桂 まに子	通年 集中講義	地域連携課題を発見し、情報技術を活かした問題解決策を考える 地域や企業、公共施設等との連携の課題を整理し、プロジェクトテーマを設定し、受講生のこれまでの学びや情報技術を活かした問題解決を試みる。
連携課題研究	宮原 佑貴子	通年 集中講義	京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究 京都の伝統的産業である着物の染色技術の奥深さを知るとともに、現代の課題を発見し、解決に導く手法を考察する。

連携活動入門

連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 連携活動の社会的意義について理解する。
2. 連携活動の基礎知識を身につける。
3. 連携活動への従事が自分の成長を促すものであることを体験する。

【授業計画】

第1回（9/15）オリエンテーション

第2回（9/22）I. イントロダクション

II. 地域社会を知ろう

1. 連携活動とは？なぜ、今求められるのか。
2. 「地域社会」の構造と地域課題：京都市東山区を事例に

第3回（9/29）II. 地域社会を知ろう

3. 京都市を学ぶ

ゲストスピーカー：京都市役所総合政策局

第4回（10/6）II. 地域社会を知ろう

4. 京都市の大学政策

ゲストスピーカー：大学コンソーシアム京都

第5回（10/13）II. 地域社会を知ろう

5. 東山区ウォーキングのためのオリエンテーション

- ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
- ②祇園新橋地区を歩く
- ③連携活動に求められる倫理事項

第6回・第7回（10/20・27）II. 地域社会を知ろう

6. 東山区ウォーキング：多様な顔をもつ東山区

- ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
- ②祇園新橋地区を歩く

第8回（11/10）III. 人口減少社会の地域課題

6. 人口減少と女性の社会参画

- ①日本の近未来の姿
- ②女性の社会参画

第9回（11/17）IV. 市民によるまちづくり活動

7. まちづくりの担い手としての市民

- ①京都のまちづくり
- ②町内会を中心とした活動

第10回（11/24）VI. 京都女子大学の連携活動

8. 京都女子大学地域連携研究センターの社会連携活動

第11回（12/1）VII. 企業の社会的責任

9. CSR と SDGs

- ①なぜ CSR なのか
- ② CSR の歴史
- ③ SDGs と企業

第12回（12/8）VII. 企業の社会的責任

10. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進 ゲストスピーカー：NTT 西日本「NTT 西日本における SDGs の取り組み」

第13回（12/15）VII. 企業の社会的責任

10. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進 ゲストスピーカー：NTT 西日本「地方創生にむけた、地域と企業の連携活動（CSV）の取り組み」

第14回（12/22）VIII. 連携活動実践

第15回（1/12）実践活動体験発表会



祇園新橋伝統的建物群保存地区

地域連携講座 A1

京都府・市の行政と地域の金融・企業について学ぶ

【担当】 京都府庁・京都市役所・日本銀行・京都信用金庫
(寄附講義) (鳥谷 一生)

【授業の形態】 オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 日本経済の中の京都経済の位置を理解する
2. 京都市の地域振興策について理解する
3. 中央銀行である日本銀行の立場から京都・滋賀経済について考えてみる
4. 地域密着金融機関の業務を理解する
5. 金融機関の将来と女性活躍のキャリア・デザインを考えてみる

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス / 経済と金融の仕組み
- 第2回 財政制度と地方公共団体の役割
- 第3回 京都府 京都で働く 雇用・産業
- 第4回 京都府 京都で働く 女性活躍 wLB 推進
- 第5回 京都市役所 京都市の産業構造と産業振興策
- 第6回 京都市役所 わたしたちの伝統産業
- 第7回 日本銀行 日本銀行の業務と金融政策
- 第8回 日本銀行 最近の金融経済動向
- 第9回 京都信用金庫 コミュニティ・バンクとは
概要：地域金融機関とは、京都信用金庫とは
- 第10回 京都信用金庫 お客様のしあわせづくり
概要：しあわせづくりサポート宣言とは、お客様本位の取組
- 第11回 京都信用金庫 本業支援①
概要：キャッシュレス、フィンテック、京都信用金庫と海外の関わり等
- 第12回 京都信用金庫 本業支援②
概要：プロジェクトについて（事例紹介、課題解決ワーク等）
- 第13回 京都信用金庫 創業支援、事業承継
概要：創業支援の取組について事例紹介、ベンチャー型事業承継とは
- 第14回 京都信用金庫 京都信用金庫の女性の活躍
概要：様々な立場の女性職員が仕事について本音で語る
- 第15回 全体総括

地域連携講座 A2

大妻女子大学「地域文化理解1」

【担当教員】 (表 真美)

【授業の形態】 対面型授業

【授業の到達目標】

この授業では、対象となる産業界（航空業界・ホテル業界・放送業界）の理解と合わせ、似て非なるサービスとホスピタリティの相違、そして世界から評価される日本の“おもてなし”の本質を理解し自ら実践できる基礎作りを目的としている。

【授業計画】

- 第1回 開講挨拶～オリエンテーション「サービスとホスピタリティとは…」
- 第2回 【ホテル業界―1】観光立国への課題「世界&日本のホテルについて」
- 第3回 グループディスカッション
- 第4回 DVD 鑑賞「コンシェルジュとは…」
- 第5回 【ホテル業界―2】東京ステーションホテルの歴史と役割
- 第6回 【ホテル業界―3】ホテルの業務と総支配人の使命〔第5・6回後、午後ホテル視察〕
- 第7回 【航空業界―1】航空産業論
- 第8回 【航空業界―2】JAL スカイが目指すサービス―1
- 第9回 【航空業界―3】JAL スカイが目指すサービス―2
- 第10回 【航空業界―4】航空業務（羽田空港）について（オペレーションセンター・他）
- 第11回 【空港業務―5】安全管理について（安全啓発センター・整備工場）〔第10・11回は現地フィールドワーク〕
- 第12回 【放送業界―1】インバウンド増加の光と影
- 第13回 【放送業界―2】世界の中の日本―1
- 第14回 【放送業界―3】世界の中の日本―2
- 第15回 授業総括～閉講挨拶「めざすべき新たな社会とは…」

※本科目をトピックとして紹介 (8p)

産学連携講座 A1

持続可能な社会の実現を果たす

民間金融機関の役割

【担当】株式会社三井住友銀行（寄附講義）

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

- ・金融グループの役割と国内外の社会環境についての理解
- ・受講者自身の今後の資産形成に必要なとなる知識の習得

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 CSについて
- 第3回 ライフデザインを考える
- 第4回 女性の生き方の多様性とお金について
- 第5回 資産形成をする際に気を付けることは
- 第6回 クレジットカードの使い方
- 第7回 万が一に備える保険
- 第8回 運用の必要性を考える
- 第9回 日本の年金制度について
- 第10回 相続・遺言信託について
- 第11回 信託業務とは
- 第12回 リースとは
- 第13回 ローン・クレジット
- 第14回 働き方改革
- 第15回 京都女子大学 OG の講話 総論

産学連携講座 A2

基礎知識としくみの理解

【担当】野村證券株式会社（寄附講義）

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

証券・金融市場関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や資産形成の際に必要なとなる知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・経済情報の捉え方
- 第2回 金融資本市場の役割とその変化
- 第3回 債券市場の役割と投資の考え方
- 第4回 外国為替相場とその変動要因について

- 第5回 株式市場の役割と投資の考え方
- 第6回 投資信託の役割とその仕組み
- 第7回 証券投資のリスク・リターン
- 第8回 ポートフォリオ・マネジメント
- 第9回 日本の株式市場史
- 第10回 資本市場における投資家心理
- 第11回 企業と CSR
- 第12回 産業展望と投資の考え方
- 第13回 ライフプランニングと資産形成
- 第14回 資産形成と非課税制度
- 第15回 まとめ

産学連携講座 B1

新聞を通じて、現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う。

【担当】株式会社朝日新聞社（寄附講義）

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

- 1) 新聞を通し情報リテラシーを高める
- 2) 社会の問題について「自分の意見を持つ」姿勢を身につける
- 3) 社会で求められる「書く力」「伝える力」を養う

【授業計画】

- 第1回 メディアの特徴、新聞の役割
- 第2回 新聞の読み方、各紙比較
- 第3回 文章の書き方①（作文作成）
- 第4回 文章の書き方②（作文講評）
- 第5回 震災報道を考える
小論文作成（800字、60分）
- 第6回 小論文の講評、議論
- 第7回 国際問題を考える
- 第8回 小論文作成（800字、60分）
- 第9回 小論文の講評、議論
- 第10回 国内問題を考える
- 第11回 小論文作成（800字、60分）
- 第12回 小論文の講評、議論
- 第13回 読者投稿欄「声」編集長講演
- 第14回 政治と選挙、世論調査
- 第15回 講義まとめ

産学連携講座 B3

働く女性のための基礎講座

【担当】連合京都・企業・各種組織（寄附講義）

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 働く上で知っておくべき基礎知識を習得する。
2. 働く楽しさや労働環境の実態を学ぶ。
3. 将来働くことに備えて、職業や企業を選択できる力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：評価と授業の進め方について説明
- 第2回 イントロダクション「なぜ連合が寄付講座を行うか」
- 第3回 労働組合とは…（労働三法、労働三権、労働組合の活動領域）
- 第4回 ワークルールを考える1「アルバイトからみえる労働問題」
- 第5回 ワークルールを考える2「ワーク・ライフ・バランスが取れた働き方とは」
- 第6回 ワークルールを考える3「雇用における男女平等・ハラスメント」
- 第7回 「質疑応答」と雇用状況の話：学生からのQ&A、雇用情勢
- 第8回 京都府の取り組み（奨学金返済、ジョブ・パーク等）
- 第9回 職場から1：「公務員の働き方を知る」
- 第10回 職場から2：「教員の働き方を知る」
- 第11回 職場から3：「一般企業の働き方を知る」
- 第12回 働くことを軸とする安心社会に向けて：連合本部
- 第13回 「職場から」のまとめと働くことの基礎知識に関するQ&A
- 第14回 働くことと生活設計：「ろうきん・こくみん共済Coop」
- 第15回 Q&A、まとめ

連携課題研究

地域連携課題を発見し、情報技術を活かした問題解決策を考える

【担当教員】桂 まに子

【授業の形態】対面・双方向型

【授業の到達目標】

- ・ 地域課題の探索
- ・ 研究テーマに関する情報収集（文献、ウェブ、現地、関係者など）
- ・ 情報技術を用いた編集・発信（Wikipedia、OpenStreetMap など）
- ・ 自ら発信した経験をもとに、連携活動を進展させるための提案を行う

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：Problem Based Learning について
- 第2回 地域や企業との連携課題について整理する
- 第3回 プロジェクト準備（連携課題テーマの設定、情報収集）
- 第4回 Wikipedia を用いた地域情報の編集・発信について
- 第5回 OpenStreetMap を用いた地域情報の編集・発信について
- 第6回 プロジェクト設計（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）
- 第7回 プロジェクト実行（1）
- 第8回 プロジェクト実行（2）
- 第9回 プロジェクト実行（3）
- 第10回 中間報告（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）
- 第11回 プロジェクト実行（4）
- 第12回 プロジェクト実行（5）
- 第13回 プロジェクト実行（6）
- 第14回 研究レポートの作成
- 第15回 最終報告・講評（最終プレゼンテーション、ディスカッション）

連携課題研究

京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究

【担当教員】宮原 佑貴子

【授業の形態】対面・双方向型の遠隔

【授業の到達目標】

1. 京都の伝統的染織産業の技術と背景についての知識を得る。
2. 染織技術を体験し、固有の魅力や特色について知る。
3. 参加体験型のイベントを計画し実施する。
4. 自らの経験を生かした提案と発表をおこなう。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：京都の伝統染織産業と京都女子大学の取り組み
- 第2回 工房訪問にむけての事前学習：伝統染色技法マドレー染について
- 第3回 第4回
伝統染織関連産業の団体や個人が行っている体験型の取り組みについてのリサーチ
- 第5回 連携課題の整理と分析
- 第6回 伝統的産業を活用した取り組みについてのリサーチ、発表
- 第7回 参加体験型イベント(実施計画、プロモーション計画)
- 第8回 参加体験型イベント(準備、ロールプレイング)
- 第9回 参加体験型イベント(プロモーション)
- 第10回 参加体験型イベント(開催の設営)
- 第11回 参加体験型イベント(実施)
- 第12回 参加体験型イベント(参加者への調査、聞き取り)
- 第13回 調査結果の分析
- 第14回 イベント実施のまとめ、提案資料作成
- 第15回 伝統的産業の取り組みと提案についての発表、合評



祇園新橋景観づくり協議会での清掃活動

受講生の声

(コメントペーパーより抜粋)

視野が広がった、社会に出て役立つ科目であると評価を得ている。

- ・受講するまでは、連携活動に特に関心があったりするわけではなく、京都女子大学での連携活動についても詳しく知らなかった。しかし、授業を受ける中で、自分の生活がいかに地域の人に支えられているかを知ることができ、非常に興味深く感じている。大学の連携活動は、大学と地域を結びつけ、人々がより暮らしやすいまちにしていくために、とても意義ある授業だ。(文学部 国文学科 2 回生)
- ・この授業を受けて、何かを考えると、自分の頭の中の選択肢が広がった。京都に 19 年間も住んでいたのに、知らなかったことが多く、知らないことを知っていく楽しさを実感している。活動体験、学科の違う学生同士の交流、新たな知識を開拓することに楽しさを感じることができた。(文学部 国文学科 2 回生)
- ・大学ならではの活動として、学生と地域住民との関わりを持つ授業があり、京都の大学に来て京都について学べるところが楽しい。(文学部 国文学科 2 回生)
- ・連携活動というものに、興味を持てたと感じている。京都について学んだが、地元ではどんな連携活動が実践されているか、調べたいと感じた。(文学部 英文学科 3 回生)
- ・全世代に向けて、多角的、多面的に目を向けた現代社会の諸問題だけでなく、歴史にまで触れることができる科目だと思う。また、大学が地域にとっても、中心となる学習施設であることを実感した。(文学部 史学科 3 回生)
- ・学んだことで、どのような社会貢献ができるのかを知り、考えるきっかけになった。実際に地域の人と関わり一緒になって活動することで、座学では学ぶことのできない経験や体験ができた。(発達教育学部 教育学科 2 回生)
- ・学校の教員の方以外の授業を受講でき、新鮮で面白く感じている。修了証を取ることを目指して頑張りたい。(発達教育学部 教育学科 2 回生)
- ・様々な企業と連携し、実務家のお話しを通じて、京女でしか学べないことを学べていると感じる。地域連携活動に、今後もっと参加したい。(家政学部 生活造形学科 1 回生)
- ・地域の問題に目を向けたり、地域課題の解決について学べたりするので、これからの就職活動や社会人になっても役立つ科目だと思う。選択科目ではなく、必修科目にしても良いぐらい貴重な内容だと思う。(現代社会学部 現代社会学科 2 回生)

<トピック>

地域連携講座A2

(大妻女子大学「地域文化理解I」)

令和2年度より、「地域連携講座 A2」(大妻女子大学「地域文化理解I」)を開設した。

この科目は、本学と連携協定を締結している大妻女子大学(東京)が集中講義で運営する科目である(本学受講生定員5名)。

令和2年度は、4名の学生が東京のホテルや実家に滞在しながら熱心に受講し、充実した5日間のカリキュラムを終えた。令和3年度においても、さらに内容を充実させて開講する予定だ。

1. 主な内容と目的

- ・東京の空の玄関である「羽田空港」とそこで働く人々とその実態を知る。
- ・東京の陸の玄関である「東京駅」とそこで働く人々とその実態を知る。
- ・メディア世界の中の日本及び東京について学ぶ。
- ・観光とおもてなし等の視点から探求するホスピタリティ精神を学ぶ。

これらの要素について、(株)日本航空の要職者、東京ステーションホテルの要職者、文化放送のディレクター等をお招きして、講義に実態見学を加え、集中講義として実施する。

2. 受講日時・場所

日時：令和2年9月7日(月)～9月11日(金)

9:00～16:40

場所：大妻女子大学および各企業(東京)



大妻女子大学受講生と一緒に集合写真

参加した学生の声

- ・今回の集中講義を通して学んだことは、一言では言い表せないくらい、濃い内容のものでした。
- ・おもてなしとは？サービスとは？コロナ禍でこれからの観光業界はどうなっていくのか？私たちにできることは何か？多くのことを学び、考えた5日間でした。
- ・フィールドワークでも、東京ステーションホテルや羽田空港などの現場で実際に働いている方の姿や、普段なら絶対に見ることのできない裏側を見て、想像以上に多くの方の力があって、ホテルや空港が動いているんだと心から実感することができました。
- ・それぞれの企業の独自性、サービスを考える中で「私らしさ」とは何かを考えることができました。今回の学びを忘れず、行動につなげていきたいと考えています。

大妻女子大学スタッフの声

- ・コロナ禍での5日間、対面授業や現場視察を通じて、誇りを持って働く姿や洗練されたホスピタリティに触れ、多くを学んだようでした。
- ・京女の学生さんは、自ら設営にも手伝ってくださったり、授業でも積極的に発言される等、大妻女子大学の学生のお手本でした。
- ・今回の講義は初めての合同の授業でしたが、相互に良い影響がありました。大妻女子大学と京都女子大学の学生の交流がこれからも発展していければと期待しています。

(写真は撮影の際のみ一瞬マスクを外しています。講義中はマスク着用しています。)



本学からの受講生(大妻女子大学の教員の方と一緒に)

女性地域リーダー養成プログラム 告知ポスター

学内掲示板と地域連携研究センターホームページに掲出し、プログラムへの認知度アップをはかった。

女性地域リーダー養成プログラム

プログラムの詳細は、
地域連携研究センター
ホームページから
ご覧いただけます。



進路別履修モデル(例)

地方公務員を希望する人

近年、住民との協働型自治の実現を目指す地方自治体が増えています。地域内外の多様な資源を活用して、まちづくりや地域活性化に取り組んでいます。地域社会について学問的に学び、連携活動に関する基本的知識やルールを身につけることはこれからの公務員に求められる能力です。まちづくりに果たす公共交通機関の役割や、連携活動の具体的事例を通して地域社会が直面する課題の実態を知ること、地方公務員の仕事を具体的にイメージし、志望意識を高めるのに役に立つでしょう。



	前期	後期
1年生		連携活動入門(ⅡⅡ1)
2年生	地域連携講座B1 (中道) 地域連携講座B2 (京都の社会と連携活動)	地域社会学(ⅡⅡ2)
3年生	産学連携講座B1(朝日新聞社) 連携課題研究(情報技術を用いた問題解決を考える)	

銀行など金融系企業への就職を考える人

一口に金融系企業と言っても多様です。三井住友銀行、野村證券、京都信用金庫と種別の異なる企業の寄附講義を学ぶことにより、金融系企業が社会で果たしている多様な役割と業務についての知見を深めるとともに、金融系企業で働く醍醐味も理解できると思います。



	前期	後期
1年生		連携活動入門(ⅡⅡ1)
2年生	産学連携講座B3 (進合京都)	産学連携講座A2 (野村証券) 産学連携講座A1 (三井住友銀行)
3年生	地域連携講座B2(京都の社会と連携活動) 連携課題研究(京都信用金庫)	

一般企業への就職を希望する人

「企業で働く」ということは実際、どういふことなのでしょう。企業にはどのような部署や仕事があるのでしょうか。産学連携講座は、寄附講義として各企業がそれぞれの分野のエキスパートを揃えて授業を担当しています。各企業の業務と社会との関係を知ることができるだけでなく、「企業で働く」ことの具体的なイメージを作ることにも役に立つでしょう。



	前期	後期
1年生		連携活動入門(ⅡⅡ1)
2年生	産学連携講座B2(大阪ガス) 産学連携講座B3(進合京都) 産学連携講座A2 (大東女子大学提供講座「地域文化発展」)	産学連携講座A3 (京都の行政と地域経済・企業)
3年生	地域連携講座B2(京都の社会と連携活動) 連携課題研究(京都信用金庫)	

NPOなどで地域活動を目指す人

地域社会は多様な人材、組織によって支えられています。「地域のために何か役立ちたい」と考えている人、あるいは漠然とでも「何か人のためになることをしたい」「ふるさとの役に立ちたい」と思っている人は、一度講義を聞いてみてください。将来、子どもを育てるようになってからでも地域活動は始めることができます。その時、大学で学んだことが生きてくるかもしれません。



	前期	後期
1年生		連携活動入門(ⅡⅡ1)
2年生	地域連携講座B1 (各地方自治体による講義) 地域連携講座B2 (京都の社会と連携活動)	民俗文化論(ⅡⅡ2)
3年生	産学連携講座B3(進合京都) 連携課題研究(女性起業家と考える創業しやすい京都)	

注1:「連携活動入門」は2年生以上でも履修できます。
注2:地域社会学・民俗文化論は、現代社会学科提供科目です。

プログラムの履修相談は下記まで
地域連携研究センター
r-sushin@kyoto-wu.ac.jp



2020 年度 連携プロジェクト補助事業一覧

事業名	申請者	連携先	イシュー別 4 領域のうち該当する領域
京都の伝統染織産業における分野を越えた 産産学連携事業 —新技術を生かした商品開発— 【→ P11 ～ P12】	青木 美保子	株式会社マドレー 綴織技術保存会 奏絲綴苑 京都女子大学 生活デザイン研究所	①子育てと高齢者支援 ④京都の産業支援
音楽活動による地域貢献・地域交流プロジェクト 「京女の“音楽”宅配便」 【→ P13 ～ P14】	荒川 恵子	社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会 NPO 法人「音の風」	①子育てと高齢者支援
呼吸法を用いた歌唱活動で健康法を学ぼう 【→ P15 ～ P16】	ガハプカ 奈美	社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会 NPO 法人「音の風」	①子育てと高齢者支援
司書の学びを地域に活かす！～オンライン編～ 【→ P17 ～ P18】	桂 まに子	京都府立図書館 空果梨堂（京都市東山区） 規文堂（京都市南区）	③京都・東山の歴史と文化
福祉施設と学生とのアイデアを結集した 「MADE IN KYOTO」商品開発 【→ P19 ～ P20】	宮原 佑貴子	社会福祉法人 白百合会	①子育てと高齢者支援 ②安心安全・まちづくり支援 ④京都の産業支援

京都の伝統染織産業における分野を越えた産産学連携事業—新技術を生かした商品開発—

●連携先：株式会社マドレー・綴織技術保存会 奏絲綴苑
京都女子大学 生活デザイン研究所

家政学部 生活造形学科 教授 青木 美保子

1. 本プロジェクトの背景と趣旨

本事業は、2019 年度に取り組んだ学まち推進型連携活動補助事業「京都の伝統染織産業における分野を越えた産産学連携の商品開発」の延長上にあり、さらに遡って、この2019 年度の事業は、2017,2018 年度の学まち推進型連携活動補助事業において、伝統をつなぐ会（2017 年度、生活デザイン研究所と連携して設立）の学生とともに京都に所在する染織関連企業と取り組んだ産学連携活動がその基盤となっている。

2017 年度は、伝統技術を生かした染織品の開発を行ない、2018 年度は、その技術を伝えるワークショップの企画・実施に取り組んだ。そして、2019 年度は、2017,2018 年度の事業でお世話になった職人の方々の間に立って、その技術の掛け合わせによる新たな技術開発に取り組んだ。奏絲綴苑で白生地を織り、その生地を株式会社マドレーで染め、奏絲綴苑でその染めた生地を解いて経糸と緯糸に戻して再び織る、この試作を繰り返すことで結果、「マドレー染糸織」、さらにそれを改良した「マドレー染経絢織」・「マドレー染緯絢織」、この3種の染織技術を開発することができた。

しかし、2019 年度のプロジェクトの目標であった「新たな技術による商品開発」という点では、「マドレー染糸織」については、商品試作は行ったものの、「マドレー染経絢織」と「マドレー染緯絢織」については、染織生地見本の制作までにとどまった。

そして当該年度の活動をそこまでとして関係者と今後の可能性を検討したところ、「マドレー染経絢織」はスカーフに適した素材として、「マドレー染緯絢織」は帯やベルトの素材として、商品化の手ごたえを感じている段階での活動終了は惜しいことで、なんとか商品化したいと意見がまとまった。

そこで、2020 年度は、この新技術を用いて、販売できるまでの商品を試作することを目標とした。なお、今年度も過年度同様、質の高い成果を上げるために、本学 生活デザイン研究所非常勤研究員 宮原佑貴子氏に協力を仰いだ。

2. 協力者と学生メンバー

連携・協力：

綴織技術保存会 奏絲綴苑 平野 喜久夫氏

株式会社マドレー 日比野 淳平氏

生活デザイン研究所 非常勤研究員 宮原 佑貴子氏

商品企画提案：

岡本 野乃花、岡本 未来、中村 美乃里

（生活造形学科 3 回生）

3. 活動内容

当初の計画では、6 月からの活動計画を立てていたが、コロナ禍で、活動は大幅に遅れ 10 月からのスタートとなった。なお、10 月の段階で、試作商品を再検討した結果、時間的制約と活動制限を考慮し、2019 年度に開発したマドレー染絢織 2 種「マドレー染経絢織」と「マドレー染緯絢織」の内、前者の技術をブラッシュアップして、スカーフの試作に取り組むこととした。以下、昨年度の活動を踏まえて見えてきた問題点を手がかりとして行った今年度の活動内容について、その概要を述べる。

3-1 経糸に関する作業効率

2019 年度の試作は、奏絲綴苑において、2 種の織方で、合わせて 1m ほどの長さの試作用白生地を制作して、株式会社マドレーでその白生地に染を行い、その染め生地を奏絲綴苑で解いて経糸と緯糸に分離し、その 2 種の織を、各々経絢織と緯絢織に織り上げた。そこで問題として浮上した点は、2019 年度の試し織が、各白生地が 50cm ほどのものであったため、経絢織に関しては、2 度目の織る作業の際に、経糸を再び箆に通し機にセットする必要がある、このことから、1 枚のスカーフを織るたびに、この作業が必要となる問題であった。この作業効率の悪さの改善は必須の課題となった。

そこで、今年度は 6m の経糸を整経し、スカーフ 2 枚分ほどの白生地を織り、その経糸をカットせずに箆をつけたまま残りの経糸とともにマドレー工房に持ち込み、試行錯誤の結果、6m をカットすることなく、まず 1 枚目の 1.5m を染め、その後、その染布部分をカットしないで、次の白生地 1.5m のところで染めを行うことができた（図1,2）。

これを、奏絲綴苑に持ち込み、まず染めた部分の緯糸を除き、経糸だけにして、その経糸を機にセットして、透け感を残す密度で新たな白糸を緯糸として通して経絢に織り上げた。この方法を使えば、白生地を 10m でも 20m でも必要なだけ準備しておいて、何枚かのスカーフを続けて制作することができ、経糸をセットする作業の効率化の目処がついた。



図1 生地を蒸す



図2 蒸して洗った生地

3-2 染料と糊に関する経費と環境問題

マドレー染の染色後に生まれる地糊と色糊が混ざった大量

の廃棄糊の問題は、経費的にも環境的にも改善すべき課題である。そのため、連続して染色する際の廃棄糊の量の多さは、おのずと大きな問題として、目に付いていた。

そこで、この度の試作では、以前より、その改善策につながる方法として考えていた以下の案を試すこととした。1枚目の染の後に残った地糊（模様を描くために色糊を載せる前に敷き詰める糊）と模様用の色糊を一緒にしてすべて回収し、その色の混ざった糊を2枚目の染の地糊に使うことで染料と糊を大幅に削減するという方法である（図3,4,5,6）。結果、以下のように、1枚目は地糊に染料を混ぜなかったため白地ベースのスカーフになり、2枚目は多色の染料が混ざった複雑な色味がベースのスカーフとなった（図7）。この方法を使えば、複数枚を染めても、廃棄する染料と糊は、最後の染でできる廃棄分のみになる。ただし、この方法は、染料が混ざって新たな色の地糊になることを想定して模様の色を決める必要があるため、模様配色の自由度という点ではデメリットとなる。



図3 模様を描く



図4 白生地糊を付ける



図5 残った色糊を集める



図6 色の混ざった地糊



図7 1枚目(左)と2枚目(右)のスカーフ(部分)

3-3 染色後、不要になった緯糸の問題

奏絲綴苑での2度目の織は、まずマドレー染の生地から緯糸を除く作業が必要である。その作業を経験して気づいた問題は、取り除いた緯糸が、布幅約40cmほどの長さしかないため、廃棄するしかないということであった。しかし、この短い糸はマドレー染によってさまざまな色が混ざり合った特殊で美しい絹糸である（図8,9）。そこで、この糸を刺繍糸に使用できないかと考えた。図10がこの緯糸であったマドレー染糸で刺繍した試作のブローチである。現在、このブローチを、社会福祉法人 白百合会とのコラボ商品にすべく、2020



図8 緯糸を抜く



図9 抜き取った緯糸



図10 緯糸を使用したブローチ

年度の別の連携プロジェクト「福祉施設と学生とのアイデアを結集した「MADE IN KYOTO」商品開発」（代表:宮原佑貴子）でその取り組みを行っている。

3-4 緯糸素材の検討と柄のデザイン

2枚の制作したスカーフの織は、透け感や柔らかさを意識して粗い織にしたため、織り糸のずれが懸念されることから、その防止のために、緯糸には熱をかけることで表面が溶けて組織を固定する機能を持つ特殊な糸を使用した。しかし、その緯糸の特性が原因で、使用感や着装感については、肌へのなじみが悪く、思ったほどにしなやかさが出ないことが分かった。そこで、緯糸素材の種類を変更して3枚目を制作した（図11）。

なお、柄についても、2枚のスカーフは全体にまんべんなくピーコック柄を配したが、その均一感で線の勢いが伝わりにくい印象であったため、その点を改良すべく、3枚目は、無地の場所を多くして、柄との境界で表現する曲線の勢いを目立たせるデザインとした（図12）。



図11 学生の織体験の様子



図12 3回目のスカーフ

4. まとめ

今年度は、昨年度に開発した「マドレー染経紡織」の技術をもって、商品開発に取り組んだ。商品化を目指すスカーフの試作検討を重ね、①昨年度より問題となっていたマドレー染の経糸を機にセットする作業を極力減らすことができないかという「経糸に関する作業効率」、②マドレー染の染料の廃棄量を減らすことで経費の削減と環境への配慮ができないかという「染料と糊に関する経費と環境問題」、③マドレー染経紡織で廃棄物となる緯糸を活用できないかという「染色後、不要になった緯糸の問題」、④商品化するための更なる改良点としての「緯糸素材の検討と柄のデザイン」、以上4件の課題において成果を出すことができ、その結果、一枚の商品として完成度の高いスカーフを制作することができた。今後は、この取り組みを踏まえて、奏絲綴苑と、株式会社マドレーでの商品製造と販売の実行に期待したい。

音楽活動による地域貢献・地域交流プロジェクト 「京女の“音楽”宅配便」

●連携先：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会・NPO法人「音の風」

発達教育学部教育学科・音楽教育学専攻 准教授 荒川 恵子

背景と目的

近年、大学の知や技術を地域社会に還元することが重要視されている。本学音楽教育学専攻では、知性と感性の融合を目指したカリキュラムを組んでいる。その学びを活かして、平成30年度から“音楽”宅配便と称した地域貢献活動に取り組んでおり好評である。いわゆるアウトリーチであり、これまでは、大学からシニア対象の「すこやか健康学級」に出向いて、その場所に合った内容の音楽活動をしてきた。人前で動じず演奏できる音楽表現力を伸ばすことはもとより、その場所にふさわしい企画内容を構成できるプロデュース力、開催を実現するための現実的な段取りを組み実施するマネジメント能力も伸ばすことができる。学生が社会に出てからも活かせる、教室の中だけでは得られない学びを体験するまたとない貴重な場ともなっている。

当初の事業計画

申請時は、これまでの継続として、アウトリーチをしようとしていた。本専攻卒業生であり、武庫川女子大学非常勤講師、NPO法人「音の風」主宰者の西野桂子氏にコーディネーターとなって頂き、社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会 事務局長の草薙千尋氏とも連携を取って検討し始めた。平成30年・31年度に既に経験のある前述の東山区社会福祉協議会に属する各学区（有済・修道・今熊野等）の“健康すこやか学級”“健康すこやかサロン”をベースとして、特別支援学校などへも出向くことを視野に入れていた。

また当初の実施にあたって、以下の事柄を重視していた。

- ・単に演奏を披露するだけではなく、実施先の希望や曲のリクエスト等も聞き、双方向で楽しみながら触れ合えるプログラムを検討し準備する。
- ・一回の活動時間は、MCや演奏を含めて40分間を目安としたい。
- ・新型コロナウイルス感染収束の状況を確認して、後期（11月～1月）に「アンサンブル研究2」の受講生やゼミ単位で活動を進める。

例えば、以下のような実施内容を想定していた。

- ・導入→専攻の紹介、交流の趣旨説明、皆で声を出す発声デモンストレーション
- ・歌詞カードを配布し、リクエスト曲や懐かしい唱歌を学生の伴奏で一緒に歌う
- ・学生たちは、参加者の間に入って積極的に働きかける
- ・授業の中で学んだ楽曲を披露する（曲目については学

生が分かり易く口頭で説明する）

- ・クラシックに親しんでもらえるような名曲を紹介する（演奏者による口頭説明を行う）
- ・音楽を介した体操や遊びなどもはさみながら、交流を深める
- ・その日に演奏した曲でもう一度聴きたい（歌いたい）曲のリクエストを募り、再度演奏する
- ・次回の参考に、今後聴きたい（歌いたい）曲について訊ねる

軌道修正

感染状況が深刻になってきた9月、西野氏と相談して、感染対策上、訪問を取りやめた。その代わりにDVDを制作して全学区に配ることにして予算を修正した。全学区とは次の11学区である。有済、栗田、弥栄、新道、六原、清水、貞教、修道、一橋、月輪、今熊野。

その後、益々、感染状況が深刻となり、現在、DVD用に録画できているのは「アンサンブル研究2」（担当 田中、大谷、土居、ガハプカ）の授業の一環として収録した4曲のみである。

いずれも2台ピアノによる演奏で、それぞれの奏者からのメッセージも収録してある。唱歌の歌唱も衝立を立てて収録してみたが、それを見て、シニアの方々が施設と一緒に歌われると感染対策上、好ましくないと考え、唱歌歌唱をDVDに編集するのは取りやめることにした。

収録内容

- 1) 三善晃編曲《唱歌の四季》より〈茶摘〉、〈夕焼小焼〉
- 2) チャイコフスキー作曲、エコノム編曲《くるみ割り人形》より〈金平糖の踊り〉、〈トレパーク〉
- 3) モーツァルト作曲、グリーグ編曲《ソナタ》K.545より 第1楽章
- 4) アレンスキー作曲《組曲 第1番》Op.15より〈ロマンス〉



図1 音楽棟ホールにおける2台ピアノ演奏収録の様子（アレンスキー作曲《ロマンス》）

(1) は、シニアの皆さんのよく知る《唱歌》の編曲なので、喜んで頂けると考えて選択した旨や、「日本の美しい風景や子供の頃を思い出して頂ければ」と学生は紹介している。(2)(3) もよく知られている曲だが、(2) の《金平糖の踊り》は、チェレスタの神秘的な音色をピアノで表現しており、《トレパーク》は、ロシアのコサックの踊りの力強さを表現していると解説している。(3) では、愛らしい雰囲気の原因が、2台ピアノ用に編曲されたことで迫力や壮大さが増していると聴くポイントを紹介している。(4) は一般には知られていないと思われるロシアの作曲家、アレンスキー (Anton Stepanovich Arensky, 1861 ~ 1906) の作品であるが、映画やテレビドラマのBGMに向いているような甘い語り口で趣のある作品である。類似旋律の繰り返しが多く初めての視聴でも聴きやすい。美しいところや感情のめくるめく変化が聴きどころであり、風景や様々な感情を思い浮かべながら聴いてほしいと伝えている。



図2 DVD 冒頭画面



図3 DVD 収録分 楽曲解説 (モーツァルト作曲《ソナタ》)

図4 DVD 収録分 演奏前の挨拶
(チャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》より)図5 DVD 収録分 2台ピアノの演奏の様子
(三善晃編曲《唱歌の四季》より)

今後に向けて

今後、可及的速やかに演奏動画を集めて編集し、DVDを製作して、コーディネーターの西野氏に11枚渡し、全学区に配って頂く予定である。もともと想定していた内容に比べると、「授業の中で学んだ楽曲を披露する(曲目については学生が分かり易く口頭で説明する)」「クラシックに親んでもらえるような名曲を紹介する(演奏者による口頭説明を行う)」部分しかできていない。つまり交流に関する部分が乏しい。しかしながら、シニアの皆さんに大きな声を出させてしまう発声トレーニングや、唱歌と一緒に歌うということは今は好ましくないので諦めることが妥当である。但し、カメラの向こうの相手に心温まるメッセージを語りかけるとか、簡単な体操などを入れられたら、更に本来の目的にかなった内容となることであろう。努力はしてみたい。編集が何よりの難関であるが、学生が自分たちでできるのであれば、そのこと自体がICT教育として意味を持つと考えている。またDVDに固定するとなると無料であっても著作権処理が発生する。それもまた誠実に取り組みたい。そのようなことが学生にとっての大きな学びとなると考える。今年は、コロナにより当初の目的を実現できなかったが、それによる軌道修正自体が、学生にとっては現実的で重要な学びとなったとも言えるであろう。

呼吸法を用いた歌唱活動で健康法を学ぼう

●連携先：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会・NPO法人「音の風」

発達教育学部教育学科・音楽教育学専攻 教授 **ガハブカ 奈美**

活動地域・場所：京都市内

活動時期：2020年4月～2021年2月

活動内容：歌唱しながら呼吸法を学ぶ

参加学生：ガハブカゼミ4回生7名

実施の背景と目的

本事業は以前より地域連携事業の一環として、中・高齢者に対して行われている各学区内の「すこやか学級」での呼吸法を中心とした歌唱活動の提供を行ってきた。それに関連した活動として、昨年に引き続き、歌唱活動の部分に更に力を入れた実施をすることとした。呼吸法と音楽（歌唱）による地域貢献を行うことを目的としている。

事業内容は、呼吸法と音楽（特に歌唱）により、地域の方々とコミュニケーションを取りながら自分たちが学修しているものがいかに役に立つのかを考えられるものとした。また、申請学生たちはいずれも申請代表者の下で教育者として必要な西洋クラシック音楽の音楽を中心にその楽曲を理論的に探究し、感性豊かに表現することを目指して日々研鑽を積んでいる。

本事業は、そのような大学での学びを地域社会の様々な場面でどのように活かすことが出来るのかを学生自身が学ぶ場でもある。同時にかねてより申請代表者が「呼吸法」のプログラム提供し、活動しているすこやか学級等へも共に出かけ、「呼吸法」がどのように「歌唱 - 声を出すこと」あるいは「演奏すること」につながりを持つかを共有し利用者らと音楽を媒介としてふれあい、地域の活性化に貢献してきた。

学生たちは、この活動を通して、地域に根差す課題や音楽の持つ可能性を認識し、自らのこれまでの学びをどのように活かすことが出来るかを主体的に探究することになる。それらは、卒業後、それぞれの居住地域で、生涯にわたって活かすことの出来る力を身につけることが期待できる。

事業計画

計画当初の予定としては、地域の「すこやか学級」を行っている場所へ各所に相応しい人数で数回出向き、呼吸法と歌唱を中心とした音楽を通して交流を行う。実施先としては、修道学区・弥栄学区・清水学区でのすこやか学級、NPO法人若者と家族のライフプランを考える会(LPW)、ローズライフ京都（介護付き老人ホーム）を考え、具体的な日程については各所との日程等の調整によって最終決定をするようにしていた。

実施にあたり、単に歌唱発表をするのではなく、実施先

の方々からの希望や事情を聞いた上で、呼吸法のプログラムと演奏内容等を各所にあわせて実施責任者と学生全員で検討するとし、実施時間はプログラム同様に実施先と相談の上決定するように考えていた。

想定していた実施内容と方法

- ・訪問先と相談し、日程等決定する。打ち合わせには（利用者の状況、年齢、人数など）リクエストを聞くなどして綿密に行う。
- ・相応しいプログラムについて申請代表者が助言を行いながら学生が主体的に考える。
- ・交流演奏や、一緒に歌ったりする楽曲については利用者の方々が参加しやすいように、プログラムや歌詞カードも申請代表者が助言を行いながら学生が主体的に考え、作成する。
- ・訪問当日は、出来る限り利用者の中へ入っていき、交流が出来るようにする。また、一緒に歌ったり、身体を動かしたり出来る曲も用意し、コミュニケーションが深まるように努める。
- ・音楽を「鑑賞」してもらう時間も設ける。具体的にはリコーダーアンサンブルの演奏や、クラシック音楽の中でも日本語以外の言語で作曲された楽曲なども盛り込み、非日常の気分も味わえるようにする。

学生たちにおいては、それぞれの場にあった楽曲は何か、どのような編成にすることで喜んでいただけるかなどを各自考えた。

各自がそれぞれ主体的に考え、役割を得ることによって、本活動を通して、地域に根差す課題や音楽の持つ可能性を認識し、自らのこれまでの学びをどのように活かすことが出来るかを主体的に探究することになる。それらは、卒業後、それぞれの居住地域で、生涯にわたって活かすことの出来る力を身につけることへとつなげることを目的におき活動を開始した。

実施概要

活動予定としては前述のように、

- 弥栄学区すこやか学級
- 修道学区すこやか学級
- 清水学区すこやか学級
- ローズライフ京都
- 訪問演奏

であったが、コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、

すべての活動予定場所で、対面での訪問演奏が不可能となった。そこで学生らと本活動をいかにすべきか検討を行った。結果、学生らは、①自分たちの活動をビデオに収めてDVDにする。そのことで、②各所で都合の良い時間に鑑賞してもらえる。また③各所でお世話している方々も一緒に安心して（感染対策などに振り回されず）我々のビデオを観ていただける。と話し合いの結果を出し、訪問しないための演奏プログラムを考え始めた。（写真1）



写真1：各楽曲の担当を決めるためのメモ

プログラムを考えるにあたっては、①呼吸法が活きる私たち（学生たち）の歌唱を鑑賞できる楽曲。②一緒に口ずさんで楽しんでいただける楽曲。③歌詞カードを見ながら歌っていただく楽曲。の3点を中心として考えていった。写真2、写真3のように多くの楽曲の検討を行った。



写真2：学生たちが選曲した歌の楽譜

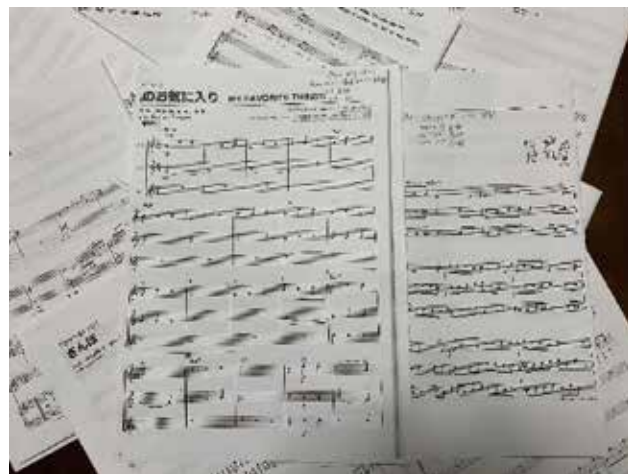


写真3：学生たちが工夫を試みようとした選曲した歌以外の楽譜

このようにプログラムも決定し、それぞれの担当も決定したが、コロナの影響は収まらず、学生同士の接触（対面での練習）が困難となったため、ビデオ制作も断念せざるを得なくなり、収録に至らなかった。

まとめ

今回は、数年間継続で行ってきている「すこやか学級」などでは例年のようなあり方での活動は叶わなかったが、学生たちが、自分たちの活動についてあるいは音楽活動について考える良い機会となった。どのような状態に陥っても、学生たちは音楽での活動の意義を見出し多くの学びを得て、各々の今後の活動へ活かせるような活動となったことを確信している。

今後このような活動を継続していくことにより、地域社会と大学との交流が深まることが期待される。

司書の学びを地域に活かす! ～オンライン編～

●連携先：京都府立図書館・空果梨堂(京都市東山区)・規文堂(京都市南区)

図書館司書課程 講師 桂 まに子

1. はじめに

前年度(2019)の学まち連携プロジェクトを通して、東山区の小松谷児童館と連携・協力し、司書の学びを地域に活かす取り組みをスタートさせた。司書の資格は図書館の中だけの資格ではなく、地域にサービスする図書館だからこそ、司書は「地域を知る」ことに積極的であってほしい。今年度(2020)は、地域連携型司書養成という明確なテーマのもと、司書の学びを活かした地域連携の事例を増やしたいというのが年度始めの計画であった。

東山区内の連携候補には「カフェ編」「企業編」などを挙げていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初の計画を実行することが難しくなった。前期が完全オンライン授業となり、大学に来ることができない学生たちとは、リアルに集まることも、地域に出て直接的な活動を行うこともできなくなった。司書の学びをオンラインで活かさないものか。非対面・非接触型の地域連携は果たして可能なのだろうか。

2020年度の地域連携プロジェクト「司書の学びを地域に活かす!～オンライン編～」では、これまでの学びはもとより、新たな学びやスキルも取り入れながら、オンライン上で「地域を知る」「図書館を知る」ことに注力した。その成果はデジタル形式(画像、動画)で記録した。

2. プロジェクトの概要

司書課程受講生(情報サービス演習、図書館基礎特論、図書館情報技術論、図書館サービス特論、図書館総合演習、図書館実習、連携課題研究など)と共に、司書の学びを活かしたオンライン上の地域連携の可能性を探った。

前期は、「京都」「東山」「京都女子大学」「司書課程」「図書館」をキーワードに、非対面・非接触型で「知識・情報を収集・蓄積・共有し、アクセスできる」ためのコンテンツ制作に力を入れた。後期は、対面授業が可能な間に地域に出た。学生たちは、コロナ禍に東山で精力的にオンライン活動をしている「語りパフォーマー」を取材し、インタビュー記録を動画にまとめた。

その他、司書の学びとオンラインが繋がった取り組みとして、「チャットレファレンス」がある。これはプロジェクトの計画段階から考えていたものではなく、オンライン授業や図書館休館を経験して見出した図書館サービスの手法である。図書館と地域がオンラインで繋がり、かつ有益なサービスになるであろうという想定のもと、今年度は学生同士によるチャットレファレンスを試みた。その結果を見ながら現職図書館員とチャットレファレンスの有効性について話すオンラインイベントも開催した。

3. 事業成果

3.1 図書館の地域サービスを動画でPR

前期は、国内の図書館の9割近くが休館措置を取った。物理的なアクセスが絶たれると、これまで当たり前でできていた図書館を訪問して地域サービスを見聞することができない。そこで、図書館のホームページがどこまで地域についての資料・情報を公開しているのか調査することにした。図書館サービス特論の受講生を中心に、地元の図書館ホームページを丁寧に見て、図書館によるコロナ情報の発信内容や特徴ある地域サービスを紹介する動画を制作した。図書館現場からの発信ではなく、司書課程の学生が図書館の外からサービスや地域性を伝える動画を公開すると、一様ではない図書館の使い方や魅力へのアクセスが可能になる。各地の図書館紹介動画は、第22回図書館総合展オンラインのポスター企画「図書館の地域サービスを外からPR」にて配信した(11月1日～30日)。



3.2 図書館のオープンデータ二次利用を提案

図書館が休館していてもオンライン上で図書館を使うことはできる。これを体験するために、大阪市立図書館のデジタルアーカイブを題材に取り上げた。同館は貴重資料を地域の文化資源であると捉え、保存するだけでなく、二次利用による新しい地域文化の創造に貢献しようとする。図書館情報技術論の受講生に、図書館のオープンデータ画像(引札や絵葉書など)を閲覧(解説付き)してもらい、興味ある貴重資料の二次利用を考えることにした。選んだ画像を用いながらアイデアを1枚にまとめて視覚化し、他の受講生と共有するところまで行った。

学生の数だけアイデアはあり、扇子やエコバッグ、ノート、パンフレット、お守り、付箋、シール、ジグソーパズルなど、商品化にも繋がりそうな提案が集まった。



3.3 東山の語りパフォーマーのオンライン活動を取材

コロナ以前、東山には継続したまちづくり活動があり、地元の文化や歴史を伝えるための様々な活動があった。コロナ禍の影響を受けて活動を自粛し、休止状態となったものもある。そのような中、活動の軸をオンラインにシフトし、目的を変えずに地域で活動をしていたケースがあった。

東山の六波羅蜜寺付近にある「空果梨堂（うっかりどう）」を拠点に、日本の伝統文化を伝える語りパフォーマーとして活動中の満茶乃さんは、2020年4月6日よりYouTube上で「0歳からの伝統文化 うっかり母ちゃんのにほんばなし」シリーズを開始し、日本各地の昔話を毎日配信してきた。5分弱の動画は、満茶乃さんが相棒の和蠟燭を横に各地の昔話を自分の語り口で話すというスタイルで、読み聞かせとは全く異なる。

昔話を図書館で借りることが容易でない中、図書館ではできなかった切り口で、オープンで新しい形の記録・発信をしている点に着目し、今年度の地域で学ぶミニプロジェクトとした。図書館総合演習の学生6名が参加し、地域の図書館のこれからを考える授業の一環で満茶乃さんに直接インタビューした。取材当日（11月3日）は、配信200本目の記念すべき日でもあった。取材の様子はYouTube「Ukkaridoh&Co. 満茶乃」チャンネルで紹介されている。学生インタビューの内容（YouTube配信に至るまで、動画の撮影方法、編集方法、直面した問題および解決方法、YouTube配信の効果など）も映像に記録し、動画制作を試みた。現時点では限定公開中だが、東山の活動を紹介する記録映像として一般公開を考えている。

満茶乃さんは、昔話というジャンル柄、本当は図書館とコラボして伝統継承の活動をしたいと言う。地域で活動する方々と当該地域の図書館との距離が近くなるために、学生たちが司書の学びを活かせないか、次に繋がる目標が見えてきた。



3.4 司書の学びを活かしたチャットレファレンス

前期は学生たちの大学図書館の直接利用が不可となり、VPNを用いたデータベースや電子ブックの利用が増え、新たに郵送サービスが加わった。司書課程の授業では、概ねオンライン授業への対応ができていたが、唯一、レファレンス演習に関しては、従来の図書館内の演習通りとはい

かなかった。実際の大学図書館のレファレンスサービスも7月に入ってようやくメールレファレンスが開始した。

オンラインレファレンスの一部に含まれるメールレファレンスだが、メールの場合、質問内容の確認や回答に時間がかかる。建物は閉じていても、オンライン上でリアルタイムにやり取りのできるレファレンスサービスを行う図書館はないかと探したが、そのような図書館は前期の時点で国内に1館もなかった。情報サービス演習のレファレンス演習（最終課題）をオンライン仕様に組み立てる中で発案したのが「チャットレファレンス」である。

幸い、本学では学生全員がTeamsを使える環境にあったため、チーム内にチャットレファレンスのチャンネルを作った。図書館員と質問者のペアを作り、テキストで質問し、インタビューおよび回答してみたところ、データベースやWebサイトを用いれば十分なものもあれば、文献に基づく調べ物が必要なため十分な回答ができないものもあった。

図書館の館内にいる図書館員であれば、文献にもデータベースにもWebサイトにもアクセス可能である。後期の情報サービス演習でもチャットレファレンスを演習に取り入れ、その結果を規文堂（京都市南区、図書館企業）勤務の元図書館員に講評してもらった。合わせて、第22回図書館総合展オンラインにて、規文堂との共同企画「チャットレファレンス道場」（11月6日）を開催した。コロナ休館を経験した現職図書館員と本学司書課程の受講生ら75名が参加し、学生の事例と講評を共有しながらチャットレファレンスの有効性について議論した。

4. おわりに

今年度は、オンライン活動を中心に「図書館を知る」「図書館を使う」「地域を知る」「これからの図書館」について学生たちは考え、取り組んだ。一番の成果は、学生の取り組み成果をデジタルデータ（画像、動画）で残せたことである。司書の学びに動画編集が加わったのも大きな変化であった。次年度は、蓄積したデジタルデータを公開していきたい。司書の学びが外と繋がると、司書課程全体にとってもさらなる学びが得られるに違いない。

1年間試行錯誤しながらオンライン活動を経験してみた結果、非対面・非接触型の地域連携の難しさを体感した。地域と連携する活動は、やはり現地を訪れて人と出会い、直接話をしながら進めるやり方が適している。次年度には実地活動が再開できることを期待し、オンラインの便利な部分と組み合わせながら、地域が直面する課題に司書の学びを活かす取り組みを今後も継続していく。

福祉施設と学生とのアイデアを結集した「MADE IN KYOTO」商品開発

●連携先：社会福祉法人 白百合会

生活デザイン研究所 非常勤研究員 宮原 佑貴子

1 事業の背景と目的

障がいによって一般就労が困難な方が通所する福祉施設では、業務の一環として様々な生産作業がおこなわれている。社会福祉法人白百合会が運営するB型就労継続支援事業所リ・プラン京都中京（以下、リ・プラン）では、約15名の利用者が日々通所しながら、地域の企業から受ける業務の他、手刺繍や手織りの技術を使ったオリジナル商品を製造している。本学生生活デザイン研究所では、2016年から、リ・プランが得意とする手刺繍の技術を活かした商品の提案と共同製作をおこなってきた。これは、学生がデザインを考え、利用者が手刺繍をおこない、それを学生が縫製などによって製品にするという流れの活動である。

本事業では、これまでの活動を踏まえ、試作品として、(表1)に示す3つの要素を取り入れた商品開発をおこない、製造工程の定着をはかり、福祉施設の商品活性化に貢献することを目標とした。

表1 商品開発に取り入れる3つの要素

1. 「京都」の地域性を感じるデザイン
2. 伝統工芸をルーツとした染色や刺繍などの手作業
3. 福祉施設の利用者が継続的に製造できる工程の工夫

2 活動の形態

2016年より生活デザイン研究所において、多くの人に福祉施設の技術の高い商品を普及する目的のもと、福祉施設の商品デザインの提案、共同制作、販売などの活動をおこなっている学生有志活動「まごころプロジェクト」、技術によるものづくり等に主眼を置いて活動する生活造形学科青木美保子研究室のプレゼミ生など、学部学年の多様な学生がメンバーとなり、分野の長所を活かしながら活動した。

学生メンバー：池田美菜萌（現代社会学科4回生）、鈴木歩（史学科4回生）、安藤楓華、池上葵、岡本未来、岡本野乃花、中村美乃里、福島彩奈、村岸凛、安田彩（生活造形学科3回生）早船愛有加、平松千佳、水野香花（生活造形学科2回生）

協力者：生活造形学科教授 青木美保子、青木研究室ラボラトリー・スタッフ 桂阿子、生活デザイン研究所スタッフ 高山祥子

3 活動内容

3-1 オンラインによる商品の共同製作

「Kyoto Couture Club」

手刺繍に用いているフランス刺繍の技術には、針を刺す手順、下絵（デザイン）と技術との相性など、提案をおこなう前に知っておくべき特性があり、事業所において継続的に製造できる商品提案のためには、フランス刺繍の技術について事前に知っておく必要がある。事業では毎年初めて手刺繍に触れる学生も多いため学生がフランス刺繍に親しむ時間の確保が課題となっていた。

そこで、リ・プランで刺繍作業に長年携わっておられる田中晴子氏に刺繍レクチャーを依頼し、オンラインで顔を合わせ、学生らが刺繍技術を教わり、その技術を用いてデザインを考案し商品提案をおこなう、技術のgive&takeによる共同製作「Kyoto Couture Club」（略称 KCC）の取組みを計画した（図1）。KCCには、15名の学生と協力者らが参加し、7月から11月までの間に計5回のオンラインレクチャーを実施し、全6種類の刺繍テクニックを教わった。



図1 Kyoto Couture Club の取組み図



オンライン刺繍レクチャーの様子



在宅の学生に送付した共通キット



復習用の共有画像

3-2 25mm 円形モチーフの試作品制作

KCC で田中氏に教わった、ストレートステッチ、ボックスステッチ、フレンチノッツ、フライステッチ、レザーデージーステッチ、ストレートステッチの6種を用いて、試作品制作をおこなった。学生らは、京都の地域性を感じる色や図案を取り入れた 25mm 径の円形におさまるデザインを考案し、モチーフを刺繍し、ブローチ等のアクセサリーに仕上げた。

3-3 生活デザイン研究所アパレル系プロジェクト展示「つなぐ展」への出展

試作品を制作した 10 名の学生が、12 月7日～23 日に図書館交流の床で開催した生活デザイン研究所主催の学内展示「つなぐ展」において試作品を展示した。展示装飾には、KCC の練習で用いた刺繍枠を使った。刺繍枠にそれぞれの試作品のイメージの色布を張り、周囲からフリルが出るようにカットし作品を点在させるという、学生提案の演出をおこなった。リ・ブランの方々は会場へ来ていただくことができなかったため、展示の様子と学生らの試作品プレゼンテーションをビデオ撮影し、商品化検討の資料として後日提出した。



「つなぐ展」搬入の様子



「つなぐ展」での活動紹介パネル

の制作段階で発生する廃棄糸を活用した花柄のブローチ。京都の伝統工芸をルーツとしたストーリーに加え、マドレー染による特有の色彩の美しさと、シルク糸の光沢を活かした商品を検討する。



京舞妓デザインの試作品



マドレー染シルク糸の試作品

5 成果と今後の展望

オンラインでの刺繍レクチャー実施と、技術の give&take という試みによって、リ・ブランの方々と学生とが、当初の予定よりも多くの回数を設けて対面することができ、商品の共同製作の過程で大切にしてきたコミュニケーションや、商品についての意見交換を、これまで以上に活発におこなうことができた。

また、互いの技術を give&take する意識を持つことによって、学生らは、教わったことに対するお返しのお気持ちを伴って丁寧なデザイン提案を心掛けていた。こうした内面的な効果は、これまでの活動基盤を強化する成果につながったと感じている。

今後は、染色と刺繍など京都ならではの技術の融合や、効果的なプロモーションを検討し、ストーリー性ある商品の共同製作に向けて引き続き事業を進める。

4 商品化への検討

提案した学生の試作品のうち、下記の2点についての共同製作を計画している。

①京舞妓デザイン

個性のあるキャラクターデザインによって、若年層に愛されるキャラクターの展開が望める。布素材への染色と刺繍の融合など、試作に取り入れた技術を用いて、新商品カテゴリとしての可能性を探る。

②マドレー染シルク糸のブローチ

2020 年度連携プロジェクト事業「京都の伝統染織産業における分野を越えた産産学連携事業 - 新技術を生かした商品開発 -」において開発されたマドレー染糸による綴織

コロナ禍で、工夫した活動を展開

東山区役所との連携活動

「STAY HOME」企画をホームページで展開

2020年4月に、東山区役所より、コロナ禍に少しでも自宅での時間を充実させるため、ホームページを通じて「STAY HOME」に役立つ企画への協力依頼を受けた。

これまで発達教育学部がハブカ奈美先生が、中高齢者の居場所づくり・ふれあい活動・健康づくり地域連携活動として協力している「弥栄健康すこやか学級」での「健康づくりのための呼吸法」に加えて、「四季の歌」を動画で本センターのホームページにて公開し、東山区役所の地域連携研究「おうち時間@東山」とリンクを貼った。

地域や学内からは、「コロナ禍に美しい歌声に癒された。」とのコメントをいただき、地域活動への貢献をはかった。



また、栄養クリニックも「健康レシピコーナー」を開設し、東山区役所の「おうち時間@東山」とリンクを貼った。5月から3月までの間に、子どもでも簡単に作れるレシピ27を紹介し、好評であった。

祇園北地区4町内 地藏盆行燈絵の制作

2020年度は、コロナ禍で予定されていた地域イベントの多くが中止された。出来るイベントだけでも継続させていきたいという地域と学生の想いが一致して、発達教育学部矢野ゼミの学生は、今年も行燈絵の制作を行った。行燈絵を木枠に貼る地域での作業は中止となったが、学生は、行燈絵を制作し、8月16日(日)～8月26日(水)の間、



行燈の掲出が行われた。「京女の学生さんに制作いただいた行燈は、地域を明るく灯し、気分転換してくれた。来年こそは一緒に様々な活動が出来る年になることを願っている。」という言葉で、地域のご担当者からいただいた。

京女ラウンドテーブル

令和3年2月24日(水) 13時より、第5回京女ラウンドテーブルをZoomにて開催した。

第1部では、コロナ禍の中での工夫をこらした寄附講義の実施状況や厚労省・文科省の委託事業であるリカレント教育課程の現状報告等がなされた。第2部では、学内公募事業の連携プロジェクトの取組についての成果発表(一般視聴者も対象)がなされ、「ぜひ、プロジェクトに会社としても協力したい」「汎用性のある取組で発展させてほしい」等の声が連携企業から聞かれた。連携協定機関からは9機関15名の参加だった。

連携活動プロジェクト2020 ポスター展示

コロナ禍で地域連携活動が多く中止となる中、2020年度の活動内容を4名の先生がポスターにして、図書館交流の床2階スペースに掲出した。コロナ禍で活動件数は少なかったが、学内の他のプロジェクトの活動紹介ポスターとともに、2021年度も暫く展示予定である。



京都女子大学が提供する「多様な学びの場」

本学が社会に幅広く提供する学習機会の主なものとして「公開講座」「生涯学習講座」「履修証明プログラム」「リカレント教育課程」がある。(表1)

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、計画の変更等を余儀なくされた。

学部の授業科目とプログラム独自の講習を組み合わせた履修証明プログラムである「京都案内マイスター養成プログラム」「仏教プログラム」「中国文化と言語プログラム」「京都の歴史と文学プログラム」の4講座については、募集に関する問い合わせはあったものの応募はなされず、開講されなかった。学部の授業形態がオンラインが中心となったことにより、今までの当該履修証明プログラムの受講者の中心であるシニア層にとってはオンライン授業への対応は困難であったと推察される。

公開講座と生涯学習講座については、前期は開催自体を見合わせる事となった。後期より一部対面授業が再開されたことを受け、市民対象の講座も再開することとした。ただし、計画にあたり、次のような留意事項を設定した。

【公開講座】

- ・定員は各教室のコロナ対策定員以内（教室席数の1/2以内。ただし、最大100名とする）
- ・事前申込制とし、当日の参加者を把握
- ・1講題につき60分以内とし、超える場合や複数の場合も15分程度の休憩を設定

【生涯学習講座】

- ・会場の選択肢を4教室に限定し、定員はコロナ対策定員以内に設定
- ・複数回来校することによる感染リスクを回避するため、3回連続講座を1日で完結
- ・1回の時間は60分とし、間に15分程度の休憩時間を設定

また、開催方法については、1.対面（オンラインへの切り替えの有無）、2.オンライン、3.対面とオンライン併用の3パターンより選択することとした。学科・専攻、研究所の先生方の協力により、公開講座4講座、生涯学習講座10講座の開催計画が提出された。生涯学習講座については、開催時期に新型コロナウイルス感染拡大が厳しい状況であり、オンライン対応不可であった4講座は開催を見合わせる事となったが、それ以外の講座は開講することができ、オンライン開催という新たな実施方法の経験は今後に生かしたい。

一方、本格的な履修証明プログラムとして2018年度に開設されたりリカレント教育課程は、「もう一度働きたい」「キャリアアップしたい」女性を応援するプログラムであり、就業経験のある女性が再度社会復帰する学びの場である。2020年度には、3年目となるキャンパス通学コースに加え、厚生労働省委託事業 教育訓練プログラム開発事業としてeラーニングコース、また、文部科学省委託事業として土曜通学コースの計3コースを開講した。

表1 多様な学びの場

対象世代	性別	プログラム（コンテンツ）	備考
20代～	男女	公開講座	無料
20代～	男女	生涯学習講座	有料
20代～	女性のみ	履修証明プログラム	有料
20代～	女性のみ	リカレント教育課程 cコース（キャンパス通学コース）	有料
20代～ （働く女性対象）	女性のみ	リカレント教育課程 eコース（eラーニングコース）	無料 2020年度に限り無料
20代～ （働く女性対象）	女性のみ	リカレント教育課程 Sコース（土曜通学コース）	無料 2020年度に限り無料

2020 年度 公開講座一覧

講座名	講題	開催	講師		開講形態
人文学会公開講座	中国企業の海外進出と対外直接投資	10/21(水)	本学助教	姜 紅祥	対面
	中国・温州企業家ネットワーク繁栄と限界		龍谷大学教授	辻田 素子	
生活デザイン研究所 公開講座	養源院の中門修復を終えて	11/7(土)	本学教授	鶴岡 典慶	対面
	養源院にて中門と堂内見学		養源院 副住職	吉水 行友	
教育学科 音楽教育専攻公開講座 ジャンルを超えた【うた】 の世界	第一部 ドイツ歌曲他	11/28(土)	本学教授	田中 純	対面
	第二部 日本のうた		国立音楽大学特任教授	花岡 千春	
法学科公開講座 加害者は変わらない？ 被害者は救われない？ ～当事者の生き方から 一人一人ができることを 考える～	講演 「下手くそやけどなんとか生きてるねん。 ～薬物・アルコール依存症からのリカバリー」	1/9(土)	介護福祉士、生活支援員	渡邊 洋次郎	オン ライン
	講演 「性暴力・DV・虐待の被害者らしさって何？」		カウンセラー	柳谷 和美	
	パネルディスカッション		介護福祉士、生活支援員 カウンセラー 本学教授 本学教授	渡邊 洋次郎 柳谷 和美 伊藤 睦 手嶋 昭子	

●生涯学習講座の様子



2020 年度 生涯学習講座一覧

講座名	各回の講題	開催	講師	開講形態
高齢化社会をサポートするユニバーサルデザインとバリアフリーデザイン	①ユニバーサルデザインとバリアフリーデザインの歴史的背景、基本的考え方とデザイン方法の紹介 ②我々の身近にあるユニバーサルデザインとバリアフリーの考え方と事例紹介 ③公共空間におけるユニバーサルデザインとバリアフリーデザインの考え方と事例紹介	10/26 (月)	本学教授 山岡 俊樹	対面・オンライン併用
いつまでも、いくつになってもよい姿勢	①良い座り姿勢・立ち姿勢とは ②姿勢がよいと呼吸もよい ③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	10/30 (金)	本学 地域連携研究センター 客員研究員 原田 奈名子	対面・オンライン併用
これであなたも健康長寿!	①健康長寿とは(総論) ②健康長寿のための栄養と食生活Ⅰ (免疫力アップ、生活習慣病予防の観点から) ③健康長寿のための栄養と食生活Ⅱ (ロコモティブシンドローム・フレイル予防の観点から)	11/13 (金)	本学特命副学長・ 栄養クリニック 副栄養クリニック長 中山 玲子	対面・オンライン併用
京都女子大学創基 100 周年記念 「京女 100 年の至宝」展 をご覧ください前に	①揺れて漂う本文 —『方丈記』古写本群— ②不動明王の涙と視線 —『泣不動縁起絵巻』断簡— ③殿様、双六で遊ぶ —肉筆彩色『列僊寿娛禄』—	11/20 (金)	本学教授 中前 正志	対面
フランス音楽の魅力：古 (いにしえ)の憧憬より	①ドビュッシーと《ペレアスとメリザンド》 ②ラヴェルと《クーブランの墓》 ③プーランクと《カルメル派修道女の対話》	11/23 (月祝)	本学准教授 田崎 直美	対面
子供が輝く小学校国語 科授業づくり講座	①本が大好きな子供を育てる ②一人一人がよさを発揮する交流活動 ③小学校国語科の授業づくりと学習評価	12/26 (土)	本学教授 水戸部 修治	オンライン

※以下の講座については新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

講座名	開催	講師
京都画壇の近代化・竹内栖鳳 創作の秘密	12/11 (金)	本学名誉教授 廣田 孝
人と動物の関わり	12/19 (土)	本学教授 霜田 求
仏と浄土と日常生活 —本願寺第八代宗主・蓮如の伝道—	2/12 (金)	本学准教授 西 義人
歴史を動かした源平の「後妻」たち —平時子・北条政子・西八条禅尼	2/18 (木)	本学宗教・文化研究所 客員研究員 野口 実 本学名誉教授

いつまでも いくつになっても よい姿勢 2020年度後期版(前年度までとの相違)

地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子

1. 2020 年度の実際

前年度までとの相違、方法

これまでは前期、後期とも各3回の連続講座であったが、今年度はコロナ禍のため前期は中止、後期は1日に凝縮して、ハイブリット型で実施した。

内容は例年とおおむね一緒だが、参加者が少なかったために例年と異なるところが2点ある。まず、内容理解に役立つ用具をたくさん用いることができたこと、もう一点は、個別の指導時間が増えたことである。

前年度までとの相違、受講者

受講者が12名だった。例年の3分の1程度である。内訳は、対面が11名、オンラインが1名だった。驚いたことに、対面者11名のうち半分強の6名が再受講者であった。6名のうち4名は2019年度の前期(座学中心)と後期(本学和室での実践編、後述)とも受講して下さった方、つまり受講3回目の方だった。残り2名が2019年度前期受講者であった。

さて、なぜ、そこまでリピートして下さるのか。実はよくわからない。

満足度

満足度は、講座に対して 1. 満足、2. やや満足、3. どちらともいえない、4. やや不満、5. 不満 の5件法の結果、回答者9名のうち90%が満足(70%)、やや満足(20%)だった。

オンライン参加者のコメント

お一人だったので、その方に限るのかもわからないが、「休憩時間に洗濯物を取り入れることも出来て、オンライン講義もラフに受講できていいなと思いました」と、好評であった。連携推進課へのねぎらいの言葉も添えられていた。

皆様からのコメント

- ・少人数で具体的に説明もあり分かりやすかった。
- ・コロナの為、実技がないのが残念です。
- ・新しい事柄が学べました。
- ・ヒモを使っただけの効果 体がきりつとした。
- ・座り方、立ち方の筋肉の使い方がよく分かりました。

2. 前年度までの状況

これからを展望するにあたり、これまでの満足度とどこから参加して下さっているか(お住まいの状況)について振り返っておきたい。

満足度

<2018年度>

第1回 (10/02) 参加者42名 提出 40名(回収率 95.2%)
1:28名、2:4名、無回答:8名

第2回 (10/16) 参加者 39名 提出 36名(回収率 92.3%)
1:22名、2:9名、3:1名、無回答:4名

第3回 (10/30) 参加者 35名 提出 35名(回収率 100%)
1:23名、2:8名、3:2名、無回答:2名

満足とやや満足の値は、80%、86%、86%と高い値だった。自由記述は、「もっと続けたかった」「楽しかった」「よくわかった」等であった。ではあるが、1の満足の値は、70%、61%、66%であった。回を増すごとに参加者が減っているのはなぜか、続かなかった方が何を求めたていたか、満足が6から7割だったところが気になる。

<2019年度 前期>

内容はおおむね昨年度と一緒にである。

3回通しての満足度は、1. 83% 2. 14% と高い値であった。そして、満足の値が2018年度より高まった。

<後期のエクササイズ編 座学受講済み者限定対象>

内容は以下の通り

初 回：背骨を動かして大きい呼吸を。

よい姿勢は肩甲骨もよく動く

2 回目：大きな呼吸のために、横隔膜と肋骨と背中と股の間を動かす。

3 回目：立つ、歩く、その土台は足部。

足の手入れでよい姿勢を導く。

23名の受講者中、回答者は18名であり、その全員が満足、つまり100%の満足度であった。

ただ、課題はいくつもある。まず空間である。23名でもスペース的にやや窮屈だった。次に、個別指導対応についてである。実際に動いていただくと個別指導を要する方が多く、23名は人数的に限界だった。原田の講習等に通じている方お一人に3回ともアシスタントを依頼することができ、それによって何とか内容を消化できたが、実施するならばアシスタントが必須である。もし、手当できないならば13人程度が限度かと思われる。

エクササイズ編の実施は無謀と思えるほど、難しい方が多く、ニーズは高いが課題は多い。また、90分は短いという意見も多々あった。

3. お住まいの状況

<2018年度> 不明

<2019年度>

前期

1. 京都市内 12 (32%) 2. 京都府内(市外) 6 (16%)
3. 京都府外 19 (51%)

内訳 大阪府 (42%)、奈良県 (11%)、滋賀県 (16%)
兵庫県 (21%)、三重県 (5%) 未回答 (5%)

後期

1. 京都市内 4 (22%) 2. 京都府内 (市外) 1 (6%)

3. 京都府外 13 (72%)

内訳 大阪府 8 (62%)、奈良県 2 (15%)、滋賀県 1 (8%)

兵庫県 1 (8%)、未回答 1 (8%)

< 2020 年度 後期 >

1. 京都市内 6 名 (60%) 2. 京都府内 (市外) 0%

3. 京都府外 4 名 (40%)

内訳 大阪府、奈良県、兵庫県、滋賀県、各 1 名

まとめると表 1 のようになる。市外からの参加率が高く、府外が多いと言えよう。特に大阪からの参加者が多い。数名の方に口頭で所要時間を伺ったところ、2 時間もかけて遠方より参加下さっていた。ただし、コロナ禍の本年度は市内の方が多かった。

表 1 どこから参加くださっていたか (単位は%)

	2019 座学	2019 実技	2020 ハイブリッド
市内	32	22	60
府内	16	6	0
府外	51	72	40
大阪府	42	62	25
奈良県	11	15	25
滋賀県	16	8	25
兵庫県	21	8	25
三重県	5	0	
未回答	5	8	

4. 今後について

以上を踏まえ、来年度以降の実施について提案したい。

☆1：ハイブリッド型での実施の推奨

- ・2020 年度に実施して、今後、遠隔での実施の可能性を見いだせた。

コロナ禍でさまざまな変化が起きた中での筆頭は、なんといっても遠隔による学びの拡充であろう。筆者も国際会議足指への紐の巻き方について手指を用いて説明



※「紐を用いて」のところ 遠隔のための撮影機も写っている

や米国、ノルウェー、メルボルン等から発信される講座や、国内でも東京他で発信される講座を多々受講している。これを機に、座学の講座は常にハイブリット型で実施するのはどうか。

課題は連携推進課の負担といえよう。

☆2：受講者に録画を配信する (期間限定)

☆1 を実施した場合に限るが、本講座は様々な実技を伴う。そのやり方を確認したいという要望が高い。これにできる意味でも録画を送るのは、アフターケアになり、より貢献できよう。ただし、連携推進課の方々のお手間がかかるのは否めない。

- ・兵庫県や大阪在住の方の参加の便宜を図ることになる。

☆3：学外での実施

近くでは大阪オフィスを利用して、実施するのはいかなるものか。ここでも課題は連携推進課の方々のお手間といえよう。

☆4：調査内容の追加

- ・所要時間を問う。

お住まいからの所要時間に鑑みて、開催時間帯を設定したい。10 時半からの開始の場合、90 分ならば終了が 12 時、片付け等でその後 15 分を要す。これでは連携推進課の方々の昼食時間に食い込み、参加者の昼食時間帯も遅くならう。2019 年度後期に 10 時開始にしたところ、「やや早い」と評価された。やはり遠方の方には負担だったと拝察される。

5. 改めて、なぜ、リピートして下さるのか

もちろん、表題の「いつまでも いくつになっても よい姿勢」への希求であろう。座学で、「なぜよい姿勢であることに意味や価値があるか」をよく理解しても、「どうやったらそれが可能か」である。1 回の学びでは十分に身についたということにはならないという実感があると推察される。



立ち方・座り方の練習

る。よって 2019 年度のエクササイズ編に参加下さった方々は継続した実技講座を期待して下さっていた。2020 年度、その方々が 3 度目を受講して下さって、「コロナの為、実技がないのが残念」と記載されていた。

2020 年度 リカレント教育課程 (3 コース) 総括

概要

2018 年度「大学連携京都リカレントプログラム」の発展講座として開講したリカレント教育課程は、2019 年度より本学独自プログラムとしてキャンパス通学コースが開講することになった。今年度からは、従来の通学コースに加え厚生労働省委託事業としてeラーニングコース、文部科学省委託事業として土曜通学コースの3コースが開講した。

各コースの定員は、キャンパス通学コース 20 名、eラーニングコース 20 名、土曜通学コース 15 名の計 55 名である。コースごとに特徴があり、今年度は説明会や個別相談会への参加者も多く、多くの出願があり、面接試験を数日にわたり実施することとなった。

開講期間

キャンパス通学コース

2020 年 10 月 1 日 (木) ～2021 年 2 月 22 日 (月)

eラーニングコース

2020 年 10 月 3 日 (土) ～2021 年 3 月 6 日 (土)

土曜通学コース

2020 年 10 月 3 日 (土) ～2021 年 3 月 6 日 (土)

開講科目

○キャンパス通学コース

必修科目と選択科目、基礎教養科目、計 7 科目以上、120 時間以上履修することが修了要件となる。

月曜日から金曜日までの 2 講時 (10:35) ～ 4 講時 (16:15) (一部 1 講時もある) に開講科目を設定している。この時間帯で履修登録した科目を受講し、空き時間で予習復習などを学内で行うことが可能である。

○eラーニングコース

必修科目と選択科目、ビジネススキル科目、キャリア形成科目、計 6 科目以上、120 時間以上履修することが修了要件となる。

土曜日に対面で行う必修科目を履修し、そのほかの日程のなかで各自のスケジュールに応じてオンデマンドによる科目を計画的に履修する。

○土曜通学コース

必修科目と選択科目、計 6 科目以上、60 時間以上履修することが修了要件となる。

全ての科目が土曜日に開講される。インターンシップは、専門的な設備が整った学外の会場において講義を受けることができる。時間数が他のコースに比べ短いことから、働きながら学びやすい。

2020 年度リカレント教育課程コース別科目一覧

キャンパス通学コース開講科目	eラーニングコース開講科目	土曜通学コース開講科目
<div>キャリア形成科目</div> <div>【必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● ライフ・キャリアデザイン <div>【1科目以上選択必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎英語 ● オフィス英語 ● パソコン基礎 ● パソコン実践 <div>【3科目選択】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 人事総務基礎 ● 会社法 (起業含む) ● 企業会計 ● マーケティング戦略とブランドマネジメント ● ロジカル・ライティング ● ヴィジュアルマーチャンダイジング (VMD) ● 簿記1(3級) ● 簿記2(商業簿記アドバンス) ● 秘書業務 ● 組織マネジメント ● 京都と観光産業 ● 働く女性のための労働関連法講座 <div>基礎教養科目</div> <div>【2科目以上選択】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 食空間プロデュース論 ● 女性を生きる (女性の多様な生き方を探究する) ● 服飾美学 ● 金融論 ● 産学連携講座 A1 (三井住友銀行) ● 産学連携講座 A2 (野村證券) 	<div>キャリア基礎科目</div> <div>【必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● ライフキャリアデザイン ● ビジネス教養 ● キャリアマネジメント <div>ビジネススキル科目</div> <div>【必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● AI リテラシー ● RPA 講座 <div>【選択】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● IT リテラシー <div>【選択必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎英語 (オフィス英語といずれか選択) ● オフィス英語 (基礎英語といずれか選択) <div>キャリア形成科目</div> <div>【選択】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 組織マネジメント 【会計コース】 ● 簿記1(3級) ● 簿記2 (商業簿記アドバンス) ● 企業会計 【人事総務コース】 ● 人事総務基礎 ● 会社法 (起業含む) <div>キャリア教養科目</div> <div>【選択】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 京都と観光産業 ● 働く女性のための労働関連法講座 	<div>キャリア形成科目</div> <div>【必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● IT リテラシー ● AI リテラシー ● RPA 講座 ● ライフキャリアデザイン <div>【1科目以上選択必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● ロジカルライティング ● ビジネスライティング ● プレゼンテーション <div>【必修】</div> <ul style="list-style-type: none"> ● インターンシップ

スケジュール（説明会から修了式まで）

2020年6月10日 リカレント教育課程説明会
 2020年6月～8月 リカレント教育課程個別相談会（91件）
 2020年8月30日・31日・9月1日 面接選考日
 2020年9月 オリエンテーション開始
 2020年10月1日 キャンパス通学コース入校式
 2020年10月3日 eラーニング及び土曜通学コース入校式
 2021年2月22日 キャンパス通学コース修了式
 2021年3月6日 eラーニング及び土曜通学コース修了式

就業に関するイベント

2020年11月14日 リカレント座談会〈Zoom〉
 2020年11月21日 京都市わかもの就職支援センター講演「今、求められる女性人材について」〈対面〉
 2020年11月28日 リカレントカフェ〈Zoom〉
 京都中小企業家同友会と受講生の交流
 2020年12月2日 京都市わかもの就職支援センター講演「就職氷河期世代女性が必要とされている仕事」〈対面〉
 2021年1月20日 本学卒業生の就労支援アドバイス講座
 2021年2月6日 業界セミナー〈Zoom〉
 オムロンエキスパートリンク
 2021年2月9日 企業との交流会〈Zoom〉
 京都市わかもの就労支援センター協力
 2021年2月22日 キャンパス通学コース成果報告会〈Zoom〉
 2021年3月6日 eラーニング及び土曜通学コース交流会〈対面〉

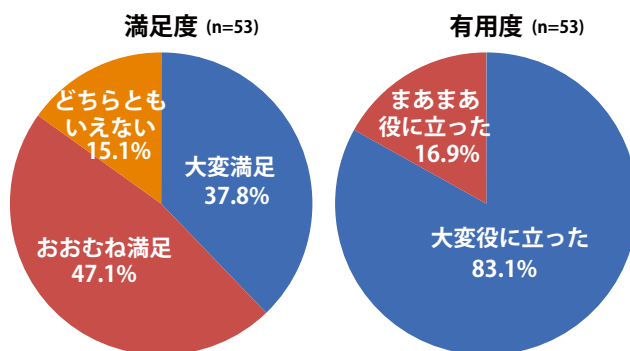


京都市わかもの就職支援センター講演（12月2日）

キャンパス通学コース、eラーニング及び土曜通学コースの3コースが開講、各コース特徴があり、受講生も特性がみられた。そのため、各コースに合わせた内容、開催時期など工夫を凝らしたイベントの開催を行った。コロナ禍のなかで、個別説明会、イベント、講義などにおいて、Zoomやoffice365を活用した。

リカレント教育課程の満足度と有用度

リカレント修了後に満足度及び有用度のアンケートを行い、受講生53名全員の回答が得られた。満足度は、「大変満足」「おおむね満足」をあわせ、満足と回答したものは85%であった。受講生の声として「有益となる講義、仲間との出会い、新たに得た価値観」とのコメントがあった。講義による知識を得ることだけでなく、目的を同じくする仲間と出会い、自分が気づけなかった価値観に触れることができることが、このリカレントの目的であり、その目的が概ね達することができたことが評価されたのだと推察された。



リカレント教育課程の有用度は、「大いに役に立った」「まあまあ役に立った」をあわせて100%であった。リカレント教育課程の受講はブランクを埋める学びの期間であったこと、ライフキャリアデザインの講義において、各自のキャリアビジョンを考えつつ講座を受講したことなどが、リカレント修了後の就職活動をはじめとする今後のキャリアビジョンを考える機会になったものだと考える。

3コース比較表

	平日通学コース	eラーニングコース	土曜通学コース
定員	20人	20人	15人
志願者数	21人	81人	26人
合格者数	20人	20人	15人
倍率	1.05倍	4.05倍	1.73倍
合格者平均年齢	45.5歳	41.8歳	36.9歳
入学手続き者数	18人	20人	15人
修了者数	18人	20人	14人

全てのコースにおいて、目標としていた修了者数（受講生の8割）は達成した。土曜通学コースの未修了者（1名）は、リカレントに対して職場の理解が得られず、通学ができなかったものである。リカレントの社会的認知度の低さが課題として抽出された。

キャンパス通学コース

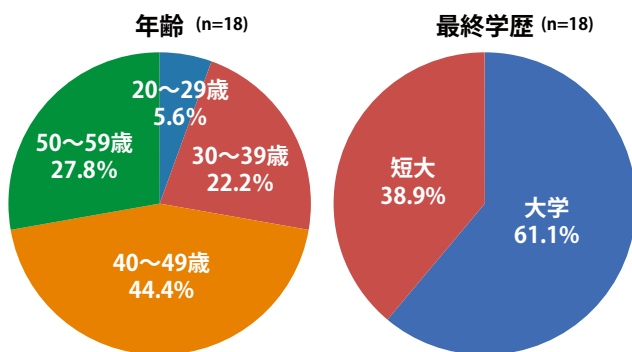
文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）認定

受講生の特性

通学コースの受講生は、年齢層の幅広さと高さ、最終学歴の高さ、京都市内の居住、保育希望者がいる等の特性がみられる。

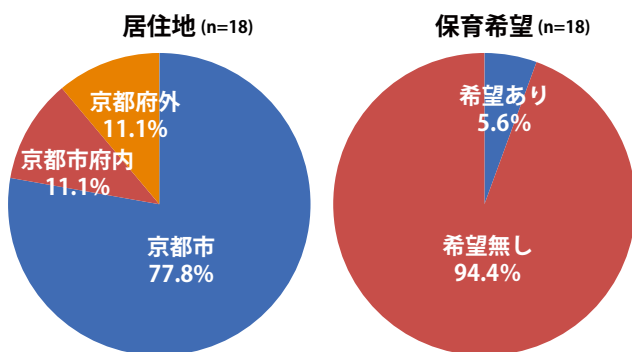
40代を中心に29歳～56歳までの幅広い年齢層が受講している。

四大卒が約6割であった。昨年度は専門学校卒や大学院卒もみられたが、今年度は四大卒と短大卒だけだった。



京都市内からの受講生（78%）が全体の3/4を占める一方で、京都府内からは亀岡市・京田辺市、京都府外からは大津市・神戸市と遠方からの受講生もみられた。

保育希望者は1名いたが、家族によるサポートが可能となったため、今年度の保育サービス利用者はなかった。



通学コースの特徴

キャンパス通学コースの特徴として、対面による授業、大学の設備の有効利用、東山区保育園協議会との連携による保育サービス、専門実践教育給付金制度の対象講座、就業支援のためのキャリアカウンセリングの5点が挙げられる。

○対面による授業の効果

講義室において、教員から直接、講義を受けることができるため、講師にその場で質問をして疑問を解決し、仲間の質問から新しい気づきを得、学びを深めることができた。大学に通学することで生活のリズムも取り戻し、就業に向けて段階的に生活リズムを整えることができるという効果もある。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として密をさけるため、広い教室への変更、対面とZoomとの併用によるハイブリット型授業、オンデマンドによる講義など多様な講義スタイルとなった。非常事態宣言が講義終了間際の1月初旬に再発令されるまでは、対面での授業を継続することができた。

○大学の設備を有効に利用

受講期間中は、大学内の図書館、パソコン室、食堂、売店など各種設備を利用することができる。他のコースも利用は可能だが、週3～5日通学するキャンパス通学コースの受講生にとって、他のコースよりも設備を有効に活用できるというメリットがある。

授業の空き時間を有効に活用し、食堂やR研究所棟多目的室を利用した受講生間の情報交換、パソコン室での課題の作成、図書館での自主学習などを行ってきた。先輩との交流会に教室を借用というケースもみられた。

パソコン室の機器類は最新のものであり、「オンデマンドの授業は大学内で受講したい」、「成果報告会のパワーポイントは学内で作成したい」という希望も聞かれ、実際に学内で作成、録画も行った受講生もいた。

今年度の受講生の特徴としては、自転車通学を希望する方が多く、駐輪場も有効に活用して頂いた。

○保育サービスを東山区保育園協議会と連携

保育サービスはリカレント教育課程開設当初、保育士協会にご協力をいただいで学内で実施していた。今年度、東山区保育園協議会と大学との連携協定締結により、リカレント教育課程の受講生も当該協議会との連携による保育サービスが利用可能となった。

保育を希望される方は、本学地域連携研究センターにお申し込みのうえ東山区保育園一覧をご覧いただき、希望保育園を決定、地域連携研究センターが協会と調整する。その後、希望者は候補保育園を見学の後に利用開始となる。一時保育や延長保育についても相談可能である。

今年度は開講当初は1名の希望者がいらっしゃったが、ご家族のサポートが可能であることから、利用はなかった。

○専門実践教育給付金制度の対象講座

専門実践教育給付金制度は、雇用保険を財源とした制



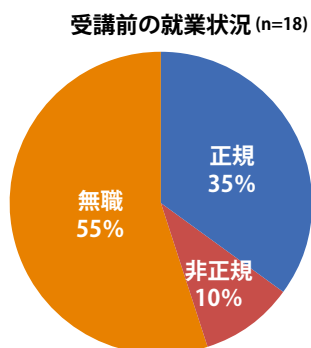
度で、受講前に最寄りのハローワークでジョブカードの作成が必要である。この制度を利用して受講し修了すれば費用の50%、更に修了後1年以内に就職することができれば20%費用が戻ってくる。この制度を活用し、今年度は6名の方が受講し修了した。

○キャリアカウンセリング

就業支援のためのキャリアカウンセリングを4回実施している（インテーク面談＋キャリアカウンセリングによる個別カウンセリング2回＋コーディネーターによる中間面談＋キャリアカウンセリングによる個別面談もしくはコーディネーターによる個別面談）。

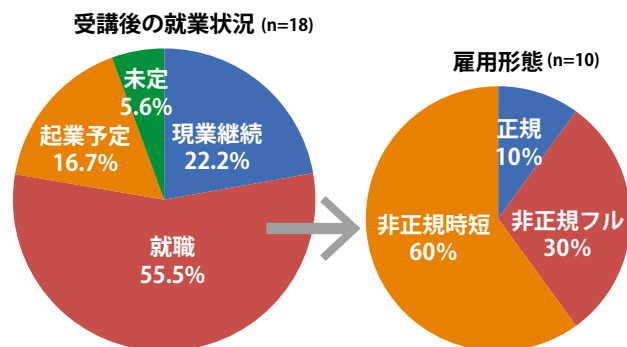
キャリアカウンセリングを実施するなかで、自分の強みに気づき、将来を見据えた就労について考えることができる。個人の就職活動状況に応じて、求職に関する情報収集の方法、履歴書・職務経歴書の書き方、面接の練習などにも対応している。

就職状況の変化について



今年度は正規雇用のなかで学びを深めた受講生もあり、多様な背景を有する受講生が多かった。リカレント教育課程の受講によって各自のライフビジョンに応じた就職活動を行った。

リカレント修了後に約8割が就職決定した。



現業継続には、「正規社員」「育児休職中の正規社員」も含む。「就職」は、受講前に無職であった者の新規就職を表す。右円グラフの雇用形態は、就職者の雇用形態内訳である。

受講生の声

- ・ 授業を通して自分と向き合い考えることができた。同期や講師の先生を含め、いろんな考え方や経歴を持つ方と会うことができた。
- ・ 大学で学びなおせたことが楽しかった。勉強のために大学の施設を使用できたことがありがたかった。
- ・ 起業や独立の意思や希望がある人の背中を押してくれる機会になった。
- ・ 「大学受験」を目標にする教育を受けてきた世代に教えてあげたい。

講師からの声

- ・ 互いの距離を取りにくいコロナ禍の制約の中でも、受講者の協力のもと、それぞれが築いてきた多様なキャリアを伝え合い、認め、成長を喜び合う貴重な仲間づくりの場になった。
- ・ 受講生の「学ぶ意欲」は強烈で、授業は楽しいながらも「真剣勝負」であり、講師も刺激を受けた。リカレント課程の広がりが、社会を変えていくと期待する。
- ・ 受講生の熱心な姿勢や視点など、講師として新たな気づきや学ぶことも多かった。リカレント生は今後、会社や周りにいい影響を与えたいと思う。

eラーニングコース

厚生労働省委託事業 教育訓練プログラム開発事業

概要

過去のリカレント教育課程応募者の中に、仕事を理由にした受講の断念や、仕事を辞職しての受講が見られたこと、また、関西圏には、働きながら学べる女性のためのリカレント講座が大学では実施されていないことを鑑み、働きながら学べる女性のためのリカレント教育のしくみづくりが急務であると認識していた。eラーニングコースは、厚生労働省「平成31年～32年度教育訓練プログラム開発事業（2年開発コース）」に採択され、2020年度より働く女性を対象とするコースとして、開講が実現した。

このコースでは、土曜日通学の対面授業5科目、オンデマンド授業11科目を用意し、働きながらも学べる受講環境を整えた。オンデマンド授業では、連携先企業である西日本電信電話株式会社が開発したオンデマンド授業システム「Lstep」を導入した。

目的

大学・短期大学以上の学歴を持ちながら、キャリア中断や家事・育児との両立などの理由から非正規雇用形態で補助的・部分的業務に従事している女性や正規雇用で働きながらも、研修機会や昇進機会に恵まれず希望の職務に就けない女性などを対象として、業務に求められる基本的なビジネス教養に加え、グローバル化の進展に伴う新たな法制度や企業環境の変化に対応可能な知識やAI、RPA、ITといった技術革新にも対応できる知識とスキルを習得し、主体的な労働観を備えてキャリアアップ、キャリアチェンジを図る女性人材を養成することを目的として開講した。

応募と選考について

「働きながら学びたい方へ」というターゲットへの呼びかけ、「アンスキルドワークから、スキルドワークへ」「ビジネスシーンでのステップアップをめざそう」をキャッチフレーズに募集したところ、81名という多数の応募者を得ることができ、上記目的へのニーズが非常に高いことが証明された。

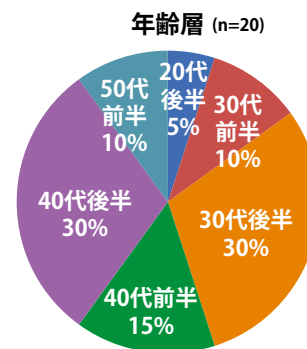
選考は①土曜日の通学が可能であるか②キャリアアップ、キャリアチェンジといった志望動機が明確であるか③学習への意欲、熱意の3点を主な評価基準として、応募者全員に面接を行った。加えて、Excelの計算など最低限のPC操作が出来るかのスキルチェックを行い、定員の20名を選考した。

受講生の属性

*以下データは受講生アンケートより抜粋

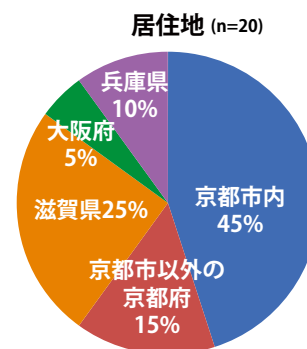
①年齢

20代後半から50代前半まで、幅広い層が受講する結果となったが、20代は他のコースに比べて最も割合が少なく、30代、40代が中心となった。30代、40代の女性が学ぶ機会を強く求めている現状がうかがえる。



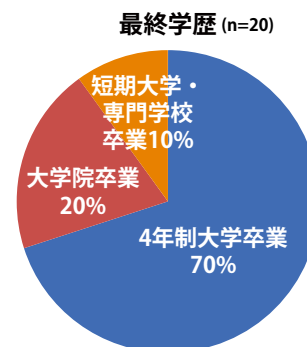
②居住地

オンデマンド授業を取り入れて通学日を減らしたことが、遠方からの受講を促し、他府県からの通学者が全体の40%と高くなった。



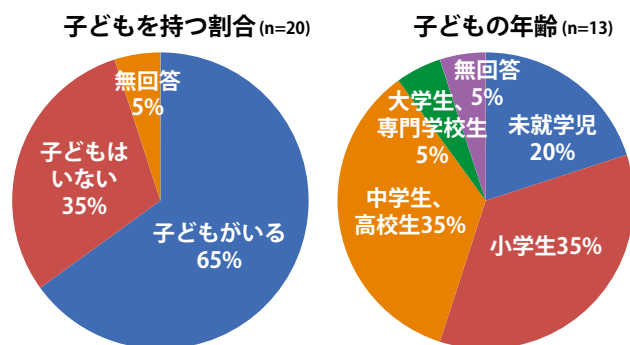
③最終学歴

大学院卒が20%を占めた。



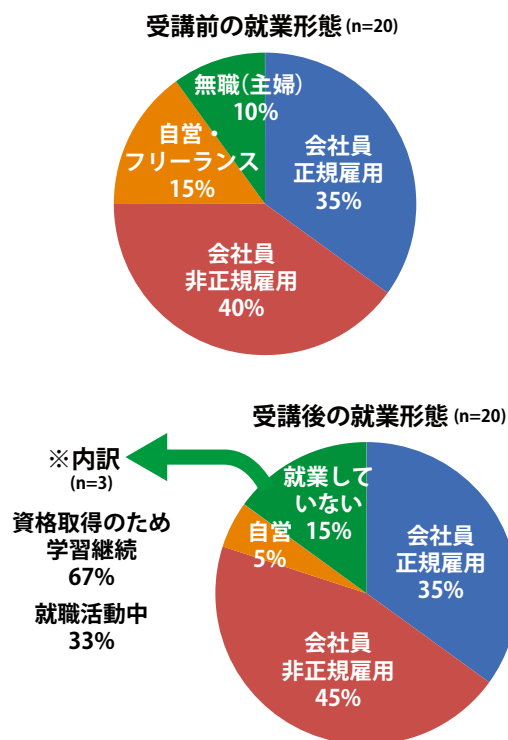
④子どもがいる割合

子どもをもつ受講生が 65%、そのうち未就学児をもちながら学ぶ受講生が、約 3 割を占め、仕事、育児と多忙な中、受講していた。



就業状況の変化について

受講前調査では、無職（主婦）が 10%を占めたが、受講中に就職活動を始めた結果、就業することができた。無職から就業へと転じた受講生は、契約社員としての就業であるが、将来正社員への登用がある職務に就くことができた。



受講中に就業者が出たにも関わらず、受講後、就業していない割合は、5%増えている。リカレント受講中に離職した者へのインタビューは、以下の通りである。

離職者への聞き取り

- ・ 今後 2 年の勤務継続で、契約社員から正社員への登用も約束されていたが、土曜日の有給休暇を申し出たが叶わず、会社は「リカレント」への理解を示してくれなかった。「リカレント」での学びで、IT スキル等を更に高め、自身のキャリアアップにつながる資格を取得したい気持ちが強くなり、思い切って退職した。(30 代前半)
- ・ 8 月末に決まっていた雇用が、コロナ禍で取り消されてしまった。受講後に、今までの経験やリカレントの授業を通じて分かった自身の強み、キャリアプランを念頭において、就業活動を継続していきたい。(40 代後半)
- ・ 家庭の事情で、暫くキャリアを中断せざるを得ないが、語学や経営について学習を継続し次のキャリアに繋げていきたいと考えている。(40 代後半)

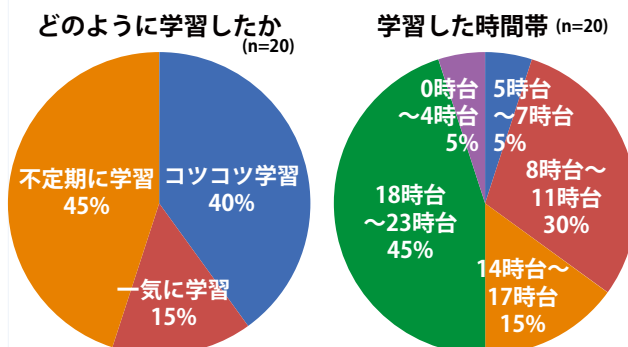
離職者へのインタビューからは、自己肯定感を持ち、学習する意欲を持って次のキャリアを見据えていることがうかがえた。

また、受講前と就業形態に変化はなくても、「昇格試験に合格し、4 月からは希望の部署への異動。」「資格試験に合格し、職務領域を拡げる。」「希望職種に転職。」と、キャリアアップ、キャリアチェンジした割合は 35%にのぼる。

eラーニングの学習方法について

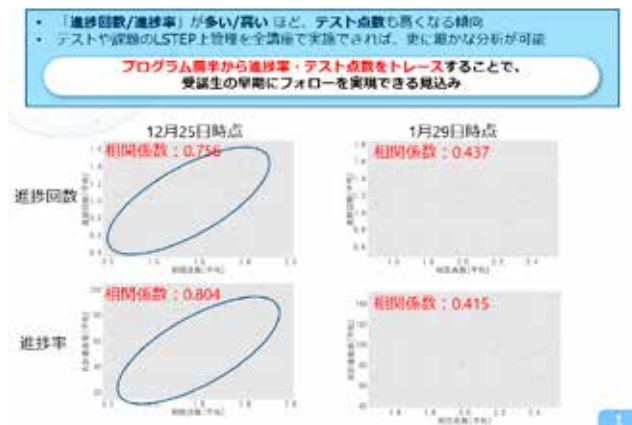
受講生全員が履修証明書を獲得したが、一気に学習、不定期的に学習など、決まった学習時間を確保できていない割合が 60%であった。また、早朝、深夜といった時間帯に学習する層が 10%みられ、家事、育児、仕事と学習の両立に時間の工面が難しい状況がうかがえた。

学習方法と成績の相関関係を西日本電信電話株式会社の協力を得て、分析したところ、コツコツと学習すると回答した層が、成績が良く、学習方法と成績には高い相関関係が見られることが分かった。



また初期段階から常に進捗状況のよい受講生は、後の成績も良い傾向にある。オンデマンド授業の場合、初期の学習習慣が後の成績に関わることがAI分析からも明らかとなった。

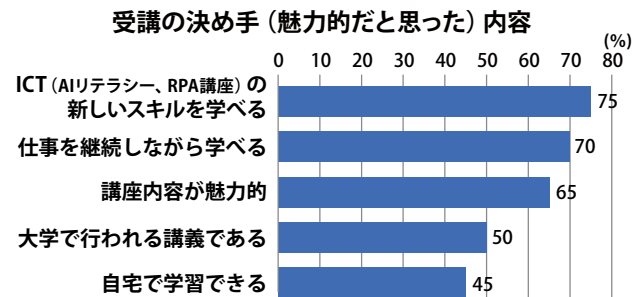
進捗状況とテストの点数の相関 (NTT資料より)



(西日本電信電話株式会社提供学習可視化ダッシュボード)

講座の有用性について

受講の決め手となった(魅力的だと思った)内容の中で、最も多かったのは、「ICTの新しいスキルを学べる」で、75%を占めていた。



主要科目では有用性(役に立った・まあ役に立った)はどの科目も80%以上と有用性が認められた。

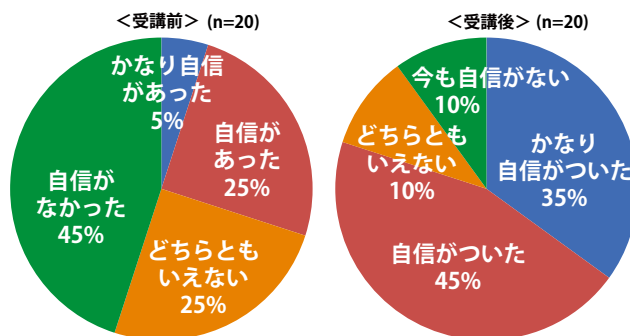
主要科目の有用性

(「役に立った」「まあ役に立った」の合計)

科目	有用性
ライフキャリアデザイン	100%
AI リテラシー	100%
RPA 講座	80%
IT リテラシー	95%
企業会計	100%
組織マネジメント	90%

ITスキルについて、受講前と受講後の自信について尋ねたところ、受講前に「自信がある」と答えたのは、30%であったが、受講後には80%に達し、「自信がない」とした割合は、受講前の45%に対し、受講後は10%と大幅に減少した。

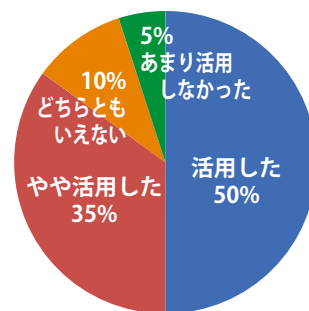
受講前後のITリテラシーへの自信 受講後にITへの自信を持つ割合は80%



ELGANA (チャットシステム) の活用について

西日本電信電話株式会社提供のチャットシステムが、受講生間のコミュニケーションに役立った。事務局からお知らせを緊急で流す場合にも、システム内での告知と合わせて活用した。対面する機会が少ないeラーニングコースでは、SNSでのコミュニケーションが受講生同士の親近感を高めるには重要である。

<ELGANA>を積極的に活用したか (n=20)



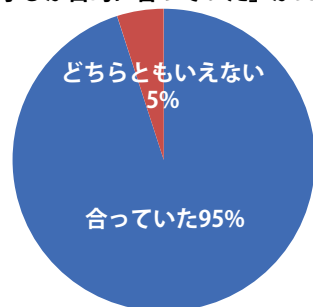
事業成果について

受講後調査では、「リカレント講座全体へ満足した」とする回答は100%であり、「学びは目的に合っていた」とする回答は95%と非常に高い。フリーアンサーでは、「今後のキャリアを考えるうえで役立った」とする記述が多く見られ、授業への満足度やキャリア意識の涵養の面で、事業は大きな成果があったといえる。

また「一生涯の友人が出来た」、「仲間の存在が刺激となった」、「SNSを通じ仲間で励まし合って学習できたのが良かった」など、受講生同士の交流を良かった点として挙

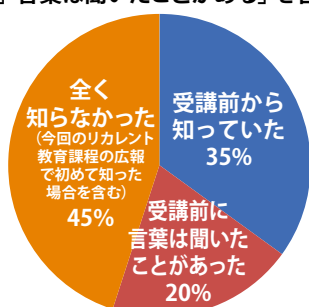
げる声が多く、今後も働く女性のネットワークを継続するため、分科会を立ち上げる企画が受講生の自主企画で進んでいる。

学びは目的に合っていたか (n=20)
「学びが目的に合っていた」が95%



今後の課題について

「リカレント」を知っていたか (n=20)
「全く知らない」「言葉は聞いたことがある」を合わせると65%



「リカレント」の認知度は、受講前には「全く知らなかった」とする割合が45%を占めていた。また、有休休暇を使つてのリカレント参加に勤務先の理解を得られず退職した受講生もいたことから、今後は、雇用側・企業経営者へもリカレントの認知、理解を促していくことが必要である。

働きながらの受講は、時間的制約もあり大変だったとする意見も見られたことから、より、視聴しやすいeラーニング用授業コンテンツの検討やより使いやすいシステムへの改善も今後の課題といえよう。

今回、西日本電信電話株式会社と共同研究で始めたAIを使つてのカウンセリングや学習分析も更にサンプル数を増やし継続していくことが望まれる。

受講生の声 (アンケート、聞き取り調査から抜粋)

○キャリアに関して

- ・自分と向き合い、考える時間が持てたことは今後の自分のキャリアにとって、たいへん有意義だった。
- ・自分の長所、短所をはっきりと意識し、短所をどのように補うのかを言葉にできるようになったのは、大きな成長だと思っている。
- ・自分の働き方について振り返りたかったが、それが達成できた。

○受講生同士の関係について

- ・eラーニング主体の授業は孤独だと思っていたけれど、素晴らしい一生の友達が出来たことが、大きな財産だ。
- ・様々なキャリアを持った受講生と出会い、交流し、今までの自分の経験を見つめ直せた。
- ・毎回の対面の授業が、とても楽しみだった。ママ友でも、同級生でもない新たな出会いに感謝している。この出会いを大切に、これからも繋がりを大切にしたい。

○その他、リカレント全般について

- ・仕事をするうえでも、学ぶ姿勢を改めて考える機会をいただき、身の引き締まる思いだった。今までの知識の確認とバージョンアップが出来て、今後に活かせる。
- ・大きな期待を抱いて応募したリカレントで、期待以上に多くの学びや気づき、出会いを得ることができた。
- ・素晴らしい講師陣の授業で、リカレントでしか知りえない知識、スキルを得て満足している。
- ・いつもサポートしてくださった事務局の皆さまに感謝している。受講前より、確実に成長したと感じ、また機会があればリカレント教育を是非受けたい。

○改良点について

- ・通学コースの授業収録後オンデマンド授業が公開され、最初のうちは、視聴できる授業が少なく残念だった。最初から全ての授業の公開があれば、もっと計画的に視聴できたと思う。
- ・どの授業も1月くらいに課題が集中して、大変だった。課題やテストがもう少し集中しないような組み方であるか、入校時に示されていると、負担が減った。
- ・質問への返信がすぐにある講師とそうでない講師がいらっちゃった。システム内で、もう少しやり取りして欲しい講師の方もいた。
- ・家事、仕事の合間に見やすいよう、AIリテラシーのような30分ずつに分けた講義が良いと思う。また、AIリテラシーは、通学コースの講義収録でなく、質問時間も省かれていて見やすかった。

土曜通学コース

文部科学省委託事業

1. 概要

2020 年度文部科学省委託事業として、リカレント教育課程に「土曜通学コース」を開設した。本事業は、短期大学・大学を卒業しながらも不本意ながら非正規雇用についている女性を対象に、キャリアアップ・キャリアチェンジの選択肢として AI/RPA の基礎的スキルの修得に特化した履修証明プログラム（60 時間以上）を構築することにある。

また、本プログラムでは、京都府商工労働観光部（京都ジョブパーク）および、地元産業界や連携企業、京都市中小企業家同友会、地元金融機関と連携して企業へのリカレント教育の広報から交流会や受講生の就業支援までを実施した。

2. 受講生の属性

土曜通学コースは平均年齢が 36.9 歳と若く、ワーキングマザーも 60% を占めた。平均履修科目数も全開講科目 8 科目中、7.6 科目であり、働きながら学ぶことに意欲的な姿勢がみられる（図1）。なお、最終学歴は半数以上が大学卒業である（図2）。居住地は京都府内が約 7 割以上を占め、残り約 3 割を大阪、滋賀、兵庫を占めていた。これは、受講形態がeラーニングベースではなく、通学ベースであることが起因していると考えられる。

図1 土曜通学コース受講生属性

項目	内容
定員	15 人
志願者数	26 人
合格者数	15 人
倍率	1.73 倍
合格者平均年齢	36.9 歳
平均履修科目数	7.6
WM（ワーキングマザー）率	60%

図2 最終学歴 (n=15)

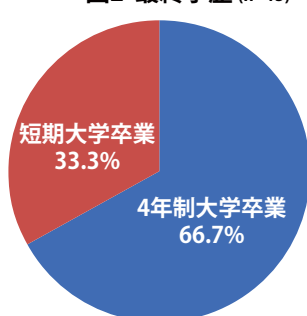
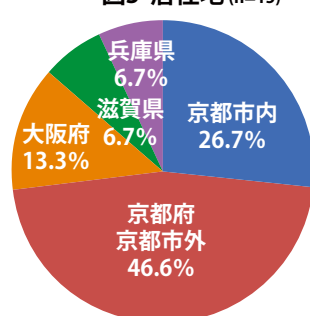
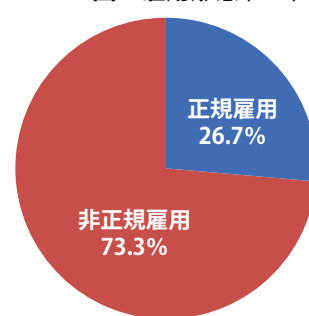


図3 居住地 (n=15)



雇用形態については、契約社員や派遣などの非正規雇用者が約 7 割以上を占め、受講生 15 名中、13 名が転職を希望していた。契約満了までに、「IT リテラシーや RPA のスキルを身につけて転職したい」という声も聞かれ、キャリア開発に本プログラムを利用していることがわかった。

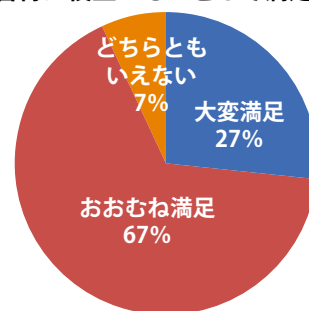
図4 雇用形態 (n=15)



3. 受講生の満足度と本プログラムへの評価

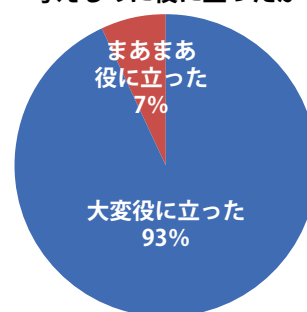
本プログラムに対する受講生の満足度は 93%（大変満足・おおむね満足）であり、高い評価を得ることができた。

図5 教材、カリキュラム、内容は自身の期待した能力の習得に役立つものとして満足できたか (n=15)



本プログラムの有用性（大変役に立った・まあまあ役に立った）は 100% の評価であり、全員が本プログラムについて自身のキャリアを考えるのに役立ったと回答した。

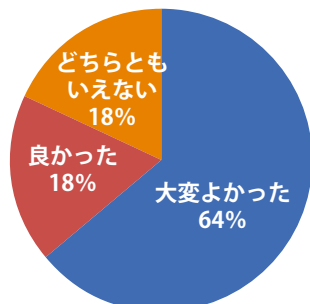
図6 本プログラムは自身のキャリアを考えるのに役に立ったか (n=15)



また、本プログラムには、就業支援に関するセミナーや、キャリアコンサルタントによるキャリアカウンセリングを希

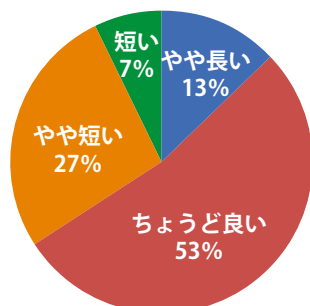
望者のみ実施した。これらを利用した受講生からも高い評価を得ることができた(図7)。

図7 就業セミナー、キャリアカウンセリングについて (n=15)



本プログラムの受講期間については、ちょうどよい(53%)、短い・やや短い(合わせて34%)であり、意見の分かれるところとなった(図8)。その理由として、当該プログラムは他のコースと比較するとカリキュラムがコンパクトであり、開講科目数や選択の幅が少ないことが挙げられる。実際に受講生から「eラーニングコースで開講されている科目も履修したい。」「AIに関することを学び、もっと深めたいと思った。」等の声がきかれ、学び直しの意欲が高まったと思われる。

図8 受講期間について (n=15)



4. 成果

(1) キャリア開発への意識

各講義科目の有用性(役に立った)については、(2)で後述する通り平均99%の大変高い有用性を示した。特に、キャリア意識を醸成するコア科目といえる「ライフキャリアデザイン」ではその有用性(役に立った)については100%であり、「自分の人生を前向きに、楽しい未来を想像することができた。」「これまでの漠然とした不安が消えて、一歩ずつ目標に向かって頑張ろうという意欲が湧いた。」等の感想が寄せられており、授業の中で、自己のキャリアを振り返り、自己分析を重ねることで、今後のキャリアプランを考える契機となり、以下の受講生の声にある通り、キャリアへの前向きな意識が醸成されている。

受講生の声(アンケート、聞き取り調査から抜粋)

- ・自分の人生を前向きに考えることができ、今後明るい気持ちでキャリアチェンジができそうだ。
- ・受講生の仲間と一緒に時間をかけて内省することができ、励みになった。目標に向かって頑張りたいと思う。
- ・短時間だったが、大学という安心な場所で集中して受講できたことでより深い学びができた。
- ・これまでの漠然とした不安が消え、今後の生き方を考えるうえで、一生の財産となる講義だった。
- ・自分を見つめなおすことができ、この先本当に何がやりたいかを見つけることができた。

ITリテラシーについては、80%の受講生が受講前よりも自信をつけており、本プログラムの目的である「AI/RPAのスキルを身につけた人材の育成」は一定の成果をあげることができたと考える。

(2) 講義科目の有用性

各講義科目の有用性(役に立った)については、以下の通り、平均98.4%の大変高い有用性を示した。

【各講義科目の有用性※】

※「大変役に立った」「まあまあ役に立った」の合計

講義科目名	有用性
ITリテラシー	93%
AIリテラシー	100%
RPA講座	100%
ライフキャリアデザイン	100%
ロジカルライティング	100%
ビジネスライティング	100%
プレゼンテーション	100%
インターンシップ	94%

また、15名の受講生中6名が本プログラム受講前から就業先の変更「あり」と回答しており、内訳として「正規職員への転換」が1名、「正規職員面接審査中」3名、「グループ内企業への異動」1名、「退職して転職活動中」1名であった。

受講生の約半数(40%)がキャリア開発への行動をとっており、この面においても一定の成果があったと考える。

なおその後の追跡調査で、「正規職員面接審査中」の3名が全員合格し、非正規から正規への転換を図ることに成功している。

（３）外部からの評価

プログラムの期間中、地域連携研究センター長が演者として参加した女性のためのリカレント教育推進協議会主催リカレント教育啓発事業イベント「コロナ時代のリカレント教育」（2021年2月19日）において、他大学より「他大学ではできないきめ細かいプログラムである」「就業支援が手厚い」等の評価を得た。

また、地域連携研究センター主任が演者として参加した全日本大学開放推進機構のリカレントをテーマとした講演会（2021年2月20日）においても、「ここまで手厚いプログラムは他大学には真似できない」「多様なライフステージの女性をサポートしているプログラムである」との高評価を得ている。本プログラムが組織的な取り組みで進めていることと、就業支援などが one to one のきめ細かい取り組みが外部からの高い評価につながったといえる。

（４）目標値とアウトプット

本プログラムについては、「定員充足率」「プログラム全体の満足度」「講義への満足度・有用性」「就業支援・相談体制」について目標値を設定していた。アウトプットは以下の通りである。プログラム全体や講義についての満足度はいずれも目標値を達成しており、プログラムの有用性も100%であり、受講生に高く評価されていた。

【定員充足率】

目標値	成果
60%以上	100%

【プログラム全体への満足度】

目標値	成果
「大変満足」「満足」あわせて 90%以上	「大変満足」「おおむね満足」あわせて 93.7%

【講義の満足度】

目標値	成果
「大変満足」「満足」あわせて 90%以上	「大変満足」「おおむね満足」あわせて 93.7%

【講義の有用性】

目標値	成果
「理解した」60%以上（全科目の平均）	「大変役に立った」「役に立った」あわせて 99.2%

また、講師からの成績評価として受講生の理解度（全科目の「理解した」の平均値）は 92.8%であり、講義科目についても受講生が理解し、知識とスキルを着実に身につけ

ていることが示唆された。IT スキルについても、IT リテラシー受講後に受講生の 80%が「自信がついた」と回答しており、一定の成果をあげることができたといえる。

「本プログラムのキャリアへの有用性」については、当初設定してなかった目標値であり、文部科学省の要請でアンケートに追加した項目であるため成果のみの記載となる。

【本プログラムのキャリアへの有用性】

成果
「大変役に立った」「まあまあ役に立った」あわせて 100%

就業支援・相談体制については目標値を越えていたが、参加した受講生からは、「時間帯が合わず、利用できなかった」という声もあり、仕事・育児・家事で可処分時間が少ないワーキングマザーが参加しやすい時間とアクセス方法について課題が残った。

【就業支援・相談体制】

目標値	成果
「役に立った」80%以上	「大変良かった」「良かった」あわせて 81.8%

5. 評価部会からの評価

本プログラムを客観的に評価するため、過半数の外部委員と本学委員で構成される「評価部会」を編成し、3月5日～9日に書面会議（メール会議）を実施した。「カリキュラム全体の有用性（役に立つか）」「就業支援の有用性（役に立つか）」「目的達成性（本プログラムが目的を達成しているか）」についての評価と本プログラムに関する意見を聴取した。それぞれの項目の平均値は「達成できていると考えられる」との回答であり、外部委員からは「プログラムの内容が素晴らしく、受講生の評価も非常に高い。コロナ禍での女性の雇用維持やスキルアップが求められている中、来年度も是非このようなプログラムを実施していただきたい。」「京都府が設置する予定の“生涯現役クリエイティブセンター”との将来的連携も視野に入れるべきと考える。」等の大学がリカレントで果たす役割に期待する声が寄せられた。

（委員メンバー：本学特命副学長、本学教務部連携推進課長、京都府商工労働観光部、京都市男女共同参画推進担当、（財）大学コンソーシアム京都）

評価結果一覧 / 4尺度評価

		全体的有用性	カリキュラムの有用性	就業支援の有用性	目的達成性
1	京都市男女共同参画推進担当	4	4	4	4
2	京都府商工労働観光部	3	3	3	2
3	(財)大学コンソーシアム京都	3	2	2	3
4	学内委員	3	3	3	3
5	学内委員	4	3	3	4
	平均値	3.4	3	3	3.2

6. 課題の抽出

(1) アクセシビリティの問題

全体の受講生のうち、ワーキングマザーが60%、シングルマザーが20%、養育するこどもの半数は小学生以下という属性の特徴があり、可処分時間に制約があるためすべて対面を求める授業形態は厳しいものがあつた。また、就業セミナーなどのイベント設定時間にも工夫が必要であり、今後はeラーニングを取り入れるなど学びへのアクセスを担保する必要がある。

(2) RPAの問題

特殊なソフトであるため、企業へ赴いての受講だった。そのため、その場限りの学びとなり、反復学習ができないため知識とスキルの定着に課題が残った。今後は、ソフトを学内のパソコンにインストールし、学内での反復学習が可能な環境を整備する予定である。

(3) ビジネス科目への学びのニーズ

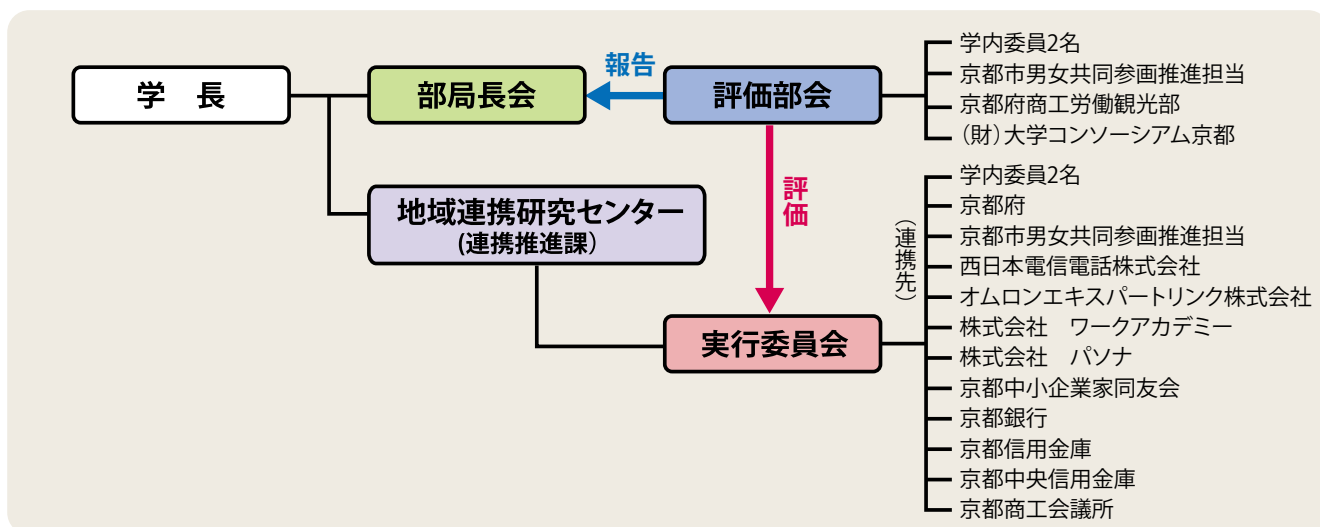
本プログラムに参加することにより、「組織マネジメント」や「統計」等、ビジネスに深く関連する領域の学びへの新たな意欲がみられた。(受講生へのインタビューでは、「eラーニングコースにあるようなビジネスに関する科目をもっと学びたい。」「継続して学びたいので、アドバンス的なコースがほしい。」との声があつた。)

次年度については、以上の課題解決をはかり、より充実したプログラムが提供できるように構築する予定である。

また、受講後アンケートの自由回答には「大学という安心な場所で集中して受講できたことで、より深い学びができた。」との感想があり、大学がリカレントに対して担う役割の大きさと高い信用性や可能性を示唆するものである。

本事業の実施と評価を通じて、私立大学は関連法規で「公の教育を担う」と規定されているが、今後は多様なニーズに応じたリカレント教育を自主的に展開していきたい。

図9 実施体制図



2020年度 主な活動実績

2020 年

- 4.30 STAY HOME 企画をホームページ上で公開
- 5.12 第1回厚生労働省 CCP 検討委員会(※注1) 開催<Zoom>
- 5.28 ~ 東山区役所主催「おうち時間@東山」(Web サイト)に協力(『STSY HOME 応援』『栄養クリニック 健康レシピコーナー』)
- 6.11 リカレント教育課程 説明会開催<Zoom>
- 6.16 京都市東山区保育園協議会と協定締結
- 6.25 ~ 8.7
リカレント教育課程 個別相談会<Zoom>
- 6.30 第2回厚生労働省 CCP 検討委員会開催<Zoom>
- 7.1 ~ 7.22
リカレント教育課程の1次募集
- 7.8 第3回厚生労働省 CCP 検討委員会開催<Zoom>
- 7.23 女性のためのリカレント教育推進協議会イベント「今こそ! 女性のための新たな学びのススメ」参加<Zoom>
- 7.27 ~ 8.21
リカレント教育課程の2次募集
- 7.30 第1回文部科学省事業実施委員会(※注2) 開催
- 8.16 ~ 8.26
発達教育学部児童学科矢野ゼミの学生が制作した祇園北地区4町内行燈絵掲出
- 8.30 ~ 9.1
リカレント教育課程全コース面接・選考日
- 9.5 リカレント教育課程 開講式
- 9.9 第4回厚生労働省 CCP 検討委員会開催<Zoom>
- 9.9 第2回文部科学省事業実施委員会開催<Zoom>
- 10.1 キャンパス通学コース入校式
- 10.3 eラーニングコース・Saturday(土曜)通学コース入校式
- 10.28 第5回厚生労働省 CCP 検討委員会開催<Zoom>
- 10.28 第3回文部科学省事業実施委員会開催<Zoom>
- 11.6 第22回図書館総合展オンラインにて図書館司書課程受講生が「チャットレファレンス道場」開催
- 11.7 現代社会学部丸野ゼミ生が京都市立東山泉小中学校でプログラミング教室実施
- 11.14 リカレント座談会開催<Zoom>
- 11.21 リカレントセミナー開催(協力:京都市わかもの就職支援センター)
- 11.28 リカレントカフェ開催<Zoom>(協力:京都中小企業家同友会)
- 11.30 滋賀大学と京都女子大学との連携協定に関する協

定書交換式開催

- 12.2 リカレントセミナー開催(協力:京都市わかもの就職支援センター)
- 12.12 京都中小企業家同友会と京都女子大学との連携協定に関する協定書交換式開催
- 12.17 女性のためのリカレント教育推進協議会にセンター長中山(当会副会長) が出席

2021 年

- 1.7 京都中央信用金庫と協定締結
- 1.20 本学卒業生の就労支援アドバイス講座
- 2.1 ~ 2.7
東山区役所主催「令和2年度東山区民 ふれあい作品展」に本学クラブ生(絵画部) が作品出展協力
- 2.6 リカレントセミナー開催<Zoom>(協力:オムロン エキスパートリンク(株))
- 2.9 リカレント生と企業との交流会開催<Zoom>(協力:京都市わかもの就職支援センター)
- 2.19 女性のためのリカレント教育推進協議会シンポジウムにてセンター長中山がパネリストとして登壇
- 2.22 2020年度リカレント生(平日通学コース) 修了式開催<Zoom>
- 2.24 第五回「京都ネットワーク協議会 京女ラウンドテーブル」開催
- 2.24 2020年度学内公募型事業成果報告会参加<Zoom>
- 2.25 第4回文部科学省事業実施委員会開催<Zoom>
- 2.25 第6回厚生労働省 CCP 検討委員会開催<Zoom>
- 3.6 2020年度リカレント生(eラーニングコース・土曜通学コース) 修了式・交流会開催
- 3.6 ~ 3.31
2020年度リカレント生成果報告会動画配信(対象:関係者等に限定)
- 3.9 公益財団法人奈良屋杉本家保存会と協定締結
- 3.29 ~ 東山区役所主催「東山区民 ふれあいひろば ONLINE」に本学クラブ生(京炎そでふれ!京小町) が参加(動画配信) 協力

(※注1) 厚生労働省委託事業「教育訓練プログラム開発事業(2年開発コース)」(本学の事業名称:非正規雇用で働く女性のキャリアアップ・キャリアチェンジ支援プログラム)を実施するために設置された委員会

(※注2) 文部科学省委託事業「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」(本学の事業名称:AI/RPAに特化した働く女性のための学び直しプログラム)を実施するために設置された委員会

協定締結先と連携協定内容一覧

(協定締結日順)

協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
京都信用金庫	2004/10/18	産学連携活動
東山区役所	2008/2/26	まちづくりの推進に関すること、教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興、地域産業の振興
近畿中国森林管理局	2008/9/16	「遊々の森」における体験活動
京都大学	2010/6/1	特別研究学生交流
東山区社会福祉協議会	2010/10/4	地域福祉活動、地域福祉推進
京都市中央卸売市場第一市場	2013/11/5	健康増進・食育にかかる情報発信、市場活性化・市場流通品の促進、地域活性化
京都府警察本部	2014/11/7	交通安全の課題と対策、交通安全活動、道路交通環境の改善、通学路の交通安全
阪急電鉄株式会社	2015/3/26	教育、人材の育成、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承、地域産業の振興
鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構	2015/6/29	就職支援、産学官連携、世代間交流、生涯学習
招徳酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
齊藤酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
株式会社 朝日新聞社	2016/1/20	新聞産業・文化の継承と振興、メディア教育、人材の育成
野村證券株式会社	2016/2/1	金融教育、人材育成
株式会社三井住友銀行	2016/7/8	金融教育、人材の育成、地域活性化
京都刑務所	2016/7/27	教育、人材の育成
奈良女子大学	2016/9/23	女性人材、学生及び大学院生の交流、単位互換
京都市立東山総合支援学校	2016/10/13	教育、人材の育成
株式会社京都銀行	2016/12/8	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都励学国際学院	2016/12/14	日本語教育課程、留学生教育、協定校の拡充
NPO 法人京都景観フォーラム	2017/1/17	地域景観教育、人材の育成
ムーンバット株式会社	2017/2/6	デザイン教育、人材の育成
ハイアットリージェンシー京都	2017/2/15	寄附講義、ホスピタリティ、人材の育成
大阪ガス株式会社	2017/2/17	寄附講義、人材育成
京都アメリカ大学コンソーシアム	2017/4/21	語学教育、人材の育成
5× Ruby Inc.	2017/5/15	情報教育、人材の育成、インターンシップ
武庫川女子大学	2017/7/11	SD の実施
奈良先端科学技術大学院大学	2017/7/24	理系人材、学生及び大学院の交流、単位互換
オムロンパーソネル株式会社	2018/3/2	リカレント教育、人材の育成
京都府立医科大学	2018/3/26	教育・研究、学生の交流、教職員・研究者交流
大妻女子大学	2018/4/10	学生及び大学院生の交流、単位互換、教職員及び研究者の交流
鹿児島国際大学	2018/7/23	学生・院生の教育・相互交流、学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
東山警察署	2018/7/24	事故・事件の防止活動と対策、教育・研究支援
岐阜県白川村	2019/4/1	地域の活性化及び産業の振興、教育、伝統文化の継承と振興、人材の育成
共立女子大学・共立女子短期大学	2019/5/1	学生の教育・学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
滋賀県多賀町	2019/6/12	地域産業の振興、地域活性化、人材の育成
オムロンエキスパートリンク株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
株式会社 ワークアカデミー	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
西日本電信電話株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
京都市東山区保育園協議会	2020/6/16	教職員、学生、リカレント受講生の子どもの保育・保育活動
滋賀大学	2020/11/6	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、文化・芸術の向上
京都中小企業家同友会	2020/12/12	中小企業の理解、地域企業の発展、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都中央信用金庫	2021/1/27	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
公益財団法人奈良屋杉本家保存会	2021/3/9	地域伝統文化の継承と振興、地域活性化、教育活動、人材の育成

京都女子大学地域・産学官連携ポリシー

(平成29年2月9日制定)

京都女子大学は、創立以来、女性教育のパイオニアとして多様な分野で活躍する女性を輩出してきました。

本学では親鸞聖人の体した仏教に基づく教育を行うことを建学の精神としています。その目的は、人間教育にあります。仏教を通して自己を見つめ自己中心的な姿を明らかにします。互いが自己中心的存在であることを認め信頼関係を構築していきます。現実の諸問題に対しても、問題の本質を捉え、積極的に取り組む人間形成を目指した教育を実践しています。

この建学の精神に則り、京都女子大学は、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会の発展に寄与する地域・産学官連携を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置付け、この使命を実現するための基本方針として、以下の通り「地域連携ポリシー」および「産学官連携ポリシー」を定めます。

《地域連携ポリシー》

1. 本学の建学の精神に鑑み、地域社会との持続的な連携を行い、地域社会の活性化のために貢献します。
(社会貢献)
2. 地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、地域社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(教育研究促進・人材育成)
3. 地域連携により得られた知の成果を広く社会に還元し、地域社会と地域課題の共有に努めます。
(地域課題の共有)
4. 地域連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
5. 地域連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
6. 本学の地域連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

《産学官連携ポリシー》

1. 公的機関・企業等との共同研究・受託研究等を積極的に推進し、社会・経済の発展に寄与するとともに、本学の教育研究活動の基盤向上を図ります。
(共同研究)
2. 産学官連携活動から得られる成果を本学の教育・研究の促進に役立てます。(教育研究促進)
3. 産学官連携活動を通じて、社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(人材育成)
4. 本学と公的機関・企業等との組織間の明確な契約による連携を基本とし、産学官連携により得られた知的財産を適切に保護・管理し、有効活用していきます。
(知財管理・活用)
5. 透明性の高い産学官連携活動を行い、説明責任を果たします。(説明責任)
6. 産学官連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
7. 産学官連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
8. 本学の産学官連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

以 上



編集・発行

京都女子大学 地域連携研究センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

TEL. 075(531)9057 FAX. 075(531)7323

E-mail: r-suishin@kyoto-wu.ac.jp

URL: <http://rccp.kyoto-wu.ac.jp>